



2023 年度  
学校教育における  
即興型英語ディベートの推進加速事業  
報告書

助成：公益財団法人 日本財団

2024 年 3 月

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）



## 1. 学校教育における体験会の実施・調査

### 【即興型英語ディベート体験会】

	開催日	参加校	新規	参加教員	参加生徒
1	5月12日(金)	岐阜高校 体験会		1	12
2	5月16日(火)	静岡高校 体験会		3	16
3	5月19日(金)	四日市高校 体験会		2	11
4	5月22日(月)	岡崎高校 体験会		1	16
5	5月24日(水)	浜松北高校 体験会		1	35
6	6月07日(水)	清水東高校 体験会	※	2	9
7	7月11日(火)	北野高校 体験会		3	19
8	7月12日(水)	広島福山暁の星高校 体験会	※	2	21
9	7月13日(木)	奈良高校 体験会		1	21
10	7月20日(木)	膳所高校 体験会		1	16
11	7月21日(金)	岩手県立花巻北高校 体験会	※	2	11
12	7月24日(月)	堀川高校 体験会		1	2
13	7月27日(木)	彦根東体験会		2	14
14	8月09日(水)	神戸高校 体験会		2	14
15	9月09日(土)	神奈川 体験会 (柏陽高校、希望ヶ丘高校、平塚江南高校、 湘南高校、厚木高校、茅ヶ崎北陵高校)		6	42
16	9月10日(日)	神奈川 体験会 (横浜平沼高校、川和高校、多摩高校、 鎌倉高校、小田原高校)	※	4	30
17	9月16日(土)	神奈川 体験会 (横浜翠嵐高校、横浜国際高校、光陵高校、 横須賀高校、相模原高校、大和高校、 横浜緑ヶ丘高校)		10	40
18	9月28日(木)	日比谷・千葉高校 合同体験会		0	14
19	9月29日(金)	千葉県立船橋高校 体験会		0	10
20	10月24日(火)	都立西高校 体験会		0	13
21	10月27日(金)	浦和第一女子・浦和高校 合同体験会		3	28
22	11月2日(木)	都立三田高校体験会	※	1	6
23	11月11日(土)	都立富士高校	※	2	45
24	2024年 2月3日(土)	高槻中学校・高等学校 体験会	※	1	8
		合計		51	453

### 参加者の声（アンケート抜粋）

- ・去年も参加したのですが我ながら自分が成長したなあ～って思って感慨深いです。（岐阜高校）
- ・英語を話す力、聞き取る力、また、チームで話し合いを効率的に行う力など様々な力がついたと思います！（静岡高校）
- ・初めてディベートを行い、ディベートの難しさと共に意見をぶつけ合うおもしろさを感じました。（北野高校）
- ・ディベート自体にもあまり経験がなかったので、英語でとなるとさらに大変だったが良い経験になった。（神戸高校）
- ・どんなことを話せば、納得させられるのか沢山考えて話すのがとても楽しかったです。英語力を高めたいと思ったのと、準備時間の使い方をみがいていきたいと思いました。ありがとうございました。（都立西高校）

### 【即興型英語ディベート交流大会】

開催日	イベント名	参加校	参加校数	参加教員	参加生徒
6月10日（土）	東海交流大会	愛知県立岡崎高校、岐阜県立岐阜高校、静岡県立静岡高校、静岡県立浜松北高校、静岡県立清水東高校、三重県立四日市高校	7	9	45
7月22日（土）	青森交流大会	青森県立青森高校、青森明の星高校、八戸聖ウルスラ学院高校、青森県立青森南高校	4	9	24
8月19日（土）	関西交流大会	兵庫県立神戸高校、滋賀県立膳所高校、奈良県立奈良高校、滋賀県立彦根東高校、京都市立堀川高校、大阪府立北野高校	7	12	42
10月9日 （月・祝）	北海道交流大会	北海道釧路湖陵高校、北海道旭川東高校	2	5	10
10月29日 （日）	東北中四国合同 交流大会	山形県立山形東高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田県立秋田南高等学校、青森県立青森高等学校、徳島県立城ノ内中等教育学校	5	7	32

11月3日 (金・祝)	神奈川交流大会	横浜平沼、横浜国際、横浜翠嵐、 光陵、大和、川和、柏陽、多摩、 横須賀、鎌倉、湘南、小田原、茅 ヶ崎北稜、相模原、厚木、希望ヶ 丘、平塚江南	17	40	106
11月3日 (金・祝)	京都交流大会	京都府立嵯峨野高校、京都市立堀 川高校、京都府立洛北高校、京都 市立塔南・開建高校、京都府立鳥 羽高校、京都市立日吉ヶ丘高校	6	17	34
11月12日(日)	首都圏 交流大会	日比谷、都立西、三田、湘南、柏 陽、県立千葉、県立船橋、浦和一 女、県立浦和	9	20	64
11月23日 (木・祝)	岩手交流大会	一関第一高校、一関第二高校、盛 岡第一高校、盛岡第三高校、花巻 北高校	5	6	37
12月16日(土)	熊本交流会	熊本第二高校、熊本商業高校、熊 本西高校、熊本北高校、玉名高 校、水俣高校、尚綱高校、真和高 校、八代高校	9	9	57
2024年1月21日 (日)	中高一貫 交流大会	千代田区立九段中等教育学校、東 京都立桜修館中等教育学校、東京 都立小石川中等教育学校、東京都 立三鷹中等教育学校、東京都立立 川国際中等教育学校、東京都立南 多摩中等教育学校、東京都立武蔵 高等学校附属中学校、東京都立大 泉高等学校附属中学校、東京都立 富士高等学校附属中学校、東京都 立白鷗高等学校附属中学校	10	10	57
		<b>合計</b>	<b>81</b>	<b>144</b>	<b>508</b>

#### 参加者の声 (アンケート抜粋)

- ・初めて大会に参加し、しっかり聞いたディベートがレベルが高すぎて驚きました。先輩方のディベートを参考に、目標にしていきたいと思います。(清水東高校)
- ・他校と試合することが殆どないので刺激的だった。(浜松北高校)



- ・オンラインで半日でできるので、手軽で良かった。生徒にとっていい刺激となった。(教員)
- ・最近議論されている論題について議論でき、また、他校とも交流できて、とても良い機会となりました。(膳所高校)
- ・関西のレベルの高い高校のチームと対戦させていただくことができ、あまりに自分が無力で諦めそうになったけれど、それと同じくらい学んだことが多くて凄く良い体験になりました。今日、改めて即興型ディベートって楽しいな!と思いました。(彦根東高校)
- ・防衛費増額とチャット GPT というどちらもホットな話題について生徒たちが関心を持ち、自分の意見を伝えるという大変貴重な機会になりました。ありがとうございます。(教員)
- ・他校と自由に話せる機会をもらったのがとてもうれしかったです。(旭川東高校)
- ・沢山の視点を知れたり、アドバイスを頂けてとても良かったです。(釧路湖陵高校)
- ・学校内でディベートの練習をするとどうしてもアイデアが画一的になってしまうことが多くあったのですが、今回 face to face で他校と対戦することで新たな考え方を得られました。(日比谷)
- ・流暢なスピーキング力だったり、内容を深める思考力だったりに長けている方々とディベートすることができてとても勉強になりました。(県立千葉)

## 【教員研修】

実施日	実施団体	実施名	参加教員数
6月23日(金)	神奈川県教育委員会	神奈川教員集合研修	24
8月01日(火)	神奈川県教育委員会	神奈川 教員集合研修	24
8月4-5日(金-土)	PDA	夏合宿	63
8月08日(火)	京都府教員研修センター	京都府教員研修	36
10月5日(木)	新潟県教育庁	新潟県教員研修	81
12月3日(日)	PDA	大阪府教員研修	7
2024年1月27日(土)	PDA	Romania Teacher's training	22
2024年3月2日(土)	PDA	教員ワークショップ	22

## 参加者の声(アンケート抜粋)

- ・生徒の立場で難しさを感じることができた。流れを体験できたので、工夫して取り入れていきたい。
- ・実際に教員同士でディベートをする経験ができてよかったです。また、生徒に実際に指導する際の工夫等を話し合う時間があってよかったです。
- ・同じチームの先生と協力してディベートに挑めたことが最も楽しかったです。生徒に教え

る前に、自分が体験しておくことはやはり大事だなと再確認しました。

・実践させていただけた上に、フィードバックもあったので非常にイメージを持ちやすくなりました。一緒に参加させていただいた先生からもたくさんのことを学べ、実りしかありませんでした。本当にありがとうございます。

・どのようなディベートを授業で展開できるかイメージがありませんでしたが、参考になりました。

### 【キーノートディベート】

参加者がディベート実践をしたあとに、論題に関わるテーマで専門家にレクチャー（日本語10分+QA5分）していただく。対象：教員、社会人

開催日	第13回
	4月30日
講師	辻 陽先生
講師所属	近畿大学法学部 教授
テーマ	地方議員は専業であるべきだ
	Local councilors should be full-time.
開催日	第14回
	5月28日
講師	京 俊介先生
講師所属	中京大学法学部 教授
テーマ	少年犯罪を抑止するために刑罰を重くするべきである。
	Penalties should be heavier to deter juvenile crime.
開催日	第15回
	6月25日
講師	平田 彩子先生
講師所属	東京大学法学部政治学研究科 准教授
テーマ	教育委員会は、体罰を行った教員の氏名を公開すべきである。
	The Board of Education should disclose the names of teachers who administered corporal punishment.
開催日	第16回
	7月17日
講師	國濱 剛先生
講師所属	関西学院大学経済学部准教授
テーマ	日本政府は最低賃金の引き上げを行うべきである。

	Japanese government should increase the minimum wage.
開催日	第 17 回
	9 月 16 日
講師	米谷 壽代先生
講師所属	静岡大学人文社会科学部法学科 教授
テーマ	景観に優先して再生可能エネルギーを整備すべきである。
	Renewable energy should be developed in priority to landscape
開催日	第 18 回
	10 月 9 日
講師	原口 正彦氏
講師所属	ハーバード大学公衆衛生大学院ポストドクトラル・リサーチフェロー
テーマ	日本の優秀な高校生にはアメリカの大学への学士入学を薦めるべきである。
	We should recommend that talented Japanese high school students enroll in American universities for bachelor's degrees.
開催日	第 19 回
	11 月 26 日
講師	楊 眞淑先生
講師所属	大阪公立大学現代システム科学研究科 准教授
テーマ	日本は英語学習の開始年齢を引き下げるべきである
	Japan should lower the starting age for English education.
開催日	第 20 回
	2 月 24 日
講師	福田 弘和先生
講師所属	大阪公立大学大学院工学研究科 教授
テーマ	農業は実地よりも、デジタル技術で体験すべきである。
	Agriculture should be experienced through digital technology rather than in the field.

#### 参加者の声（アンケート抜粋）

- ・キーノートレクチャーのおかげで、否定側として抜けていたアクターや視点を得られることができとても勉強になりました。
- ・刑法についての話を伺うことは大学でもないので今回の話はとても新鮮でした。自身が持っている考えが、実際おこっている事とは違うということを実感した。今後もキーノートレクチャーに参加したい。
- ・毎回毎回勉強になっています。この機会をどうも有難うございます。今後ともよろしくお願ひします。

## 2. 全国合宿、全国大会（高校、中学）、世界交流大会の実施

開催日	イベント名	種別	参加校数	参加教員	参加生徒
8月04日（金） 8月05日（土）	全国中学校・高校即興型英語 ディベート 合宿・大会 2023	中学校	14	10	97
		高校	41	53	298
12月23日（土） 12月24日（日）	第9回 PDA 高校生即興型英語 ディベート全国大会	高校	78	90	234
2024年1月20日（金） 1月21日（土）	第9回 PDA 高校生パラメ ンタリーディベート 世界交 流大会 PDAWC2024	日本高校	6	10	18
2024年3月17日（日）	第7回 PDA 中学生即興型英 語ディベート全国大会	中学校	34	38	123
		合計	173	201	770

報告書を最終部に別添

### 3. パーラメンタリーディベート検定の精緻化・実施

#### 【精緻化した評価方法の提示 資料およびホームページ】

<https://kentei.pdpda.org/about/#hyouka>

#### PD検定®の特徴

パーラメンタリーディベート検定® (PD検定®) とは、英語での論理的表現力を測る試験です。

グローバル化が進む中で、英語によるコミュニケーション能力の向上が期待されて久しいです。昨今は、新しい時代に必要能力として、文部科学省の新しい学習指導要領にも記載の通り、思考力・判断力・表現力を鍛えることが求められています。

PD検定®では、英語で即興でディベートを実践することを通し、「英語で議論する力」※が身につく問題設計をしています。

※「英語で議論ができること」と「英語が使えること」は違います。

議論するということは、意見を論じ合うことです。思いついたことをそのまま口にする日常的な会話とは異なり、より論理的に思考を組み立て、他者の意見もよく聞いたうえで、論点を整理して意見を述べ合う必要があります。

#### 評価基準について

「内容」「表現」の2つの観点から評価します。

「内容」の評価項目には、「主張の理由」「具体例」「論題との関連性」「スピーカーの役割・戦略性」の4つの項目があります。

「表現」の評価項目には、「態度・話す姿勢」「アイコンタクト・ジェスチャー」「明瞭性」「タイムマネジメント」の4つの項目があります。

それぞれの詳細を図1, 2に示します。

評価項目	評価基準	評価項目	評価基準
内容	主張の理由	主張の理由	主張の理由を明確に述べ、論理的に展開する。
	具体例	具体例	具体的な事例やデータを引用し、主張を補強する。
	論題との関連性	論題との関連性	論題の核心を捉え、関連性を明確に示す。
	スピーカーの役割・戦略性	スピーカーの役割・戦略性	自分の役割を認識し、効果的な戦略を展開する。
表現	態度・話す姿勢	態度・話す姿勢	自信を持って話し、相手と向き合う姿勢を示す。
	アイコンタクト・ジェスチャー	アイコンタクト・ジェスチャー	適切なアイコンタクトとジェスチャーを用いる。
	明瞭性	明瞭性	簡潔で明確な表現を用い、聞き手が理解しやすいように話す。
	タイムマネジメント	タイムマネジメント	決められた時間内に発言を完了し、時間配分を適切に行う。

図1 内容の評価基準

評価項目	評価基準	評価項目	評価基準
内容	主張の理由	主張の理由	主張の理由を明確に述べ、論理的に展開する。
	具体例	具体例	具体的な事例やデータを引用し、主張を補強する。
	論題との関連性	論題との関連性	論題の核心を捉え、関連性を明確に示す。
	スピーカーの役割・戦略性	スピーカーの役割・戦略性	自分の役割を認識し、効果的な戦略を展開する。
表現	態度・話す姿勢	態度・話す姿勢	自信を持って話し、相手と向き合う姿勢を示す。
	アイコンタクト・ジェスチャー	アイコンタクト・ジェスチャー	適切なアイコンタクトとジェスチャーを用いる。
	明瞭性	明瞭性	簡潔で明確な表現を用い、聞き手が理解しやすいように話す。
	タイムマネジメント	タイムマネジメント	決められた時間内に発言を完了し、時間配分を適切に行う。

図2 表現の評価基準

PD検定®では、内容10点、表現10点の合計20点で、PDレベル（図3）が設定されます。スコア範囲に応じ、6つのPDレベルを設定しています。内容、表現それぞれの点数の合計とPDレベルの対応を図4に示します。

PDレベル	スコア範囲	スコア	論理的表現能力	内容	表現
PD1	18-20	内容・表現のいずれも7点以上	相手の意見を批判的に理解し、自らの意見との相違を明確にし、必要に応じて論議できる。	自らの考えを高度に整理し、理由および具体例を挙げて論理的に論議できる。批判的・建設的な論議の仕方を理解し、効果的に論議を演出できる。	「正しい」論議で論議を持ち、アイコンタクト、声の大きさやスピードの調整を適切に行うことで、相手と共通の考えをより明確に伝えられる。
PD2	14-18	内容・表現のいずれも5点以上	相手の意見を十分に理解し、自らの意見を論理的に説明できる。	自らの考えを整理し、理由および具体例を挙げて論理的に論議できる。状況に応じた効果的な論議の仕方を理解し、論議を演出できる。	「正しい」論議で論議を持ち、アイコンタクト、声の大きさやスピードの調整を行ったうえで、相手と共通の考えをより明確に伝えられる。
PD3	12-16	内容・表現のいずれも5点以上	相手の意見を理解し、自らの意見を論理的に説明できる。	相手とが想像できるような理由および具体例を挙げて説明できる。議論すべき話題を理解し、明確な内容を述べる事ができる。状況に応じて自ら問いをすることが出来る。	正しい論議で、敬意を持って説明することができる。アイコンタクトで相手と向き合えることができる。声の大きさやスピードを適切に調整できる。
PD4	10-15	内容・表現のいずれも5点以上	相手の意見を整理し、自らの意見を論理的に説明できる。	理由や具体例を挙げられる。議論すべき話題に合った内容を述べる事が出来る。状況に応じて自ら問いをすることが出来る。	敬意が示すことななく説明することができる。アイコンタクトを意識できる。おおよそ相手と向き合えるような声の大きさで伝えることができる。
PD5	6-14	内容・表現のいずれも5点以上	話題に関する基本的なことを説明できる。	理由や具体例などは話題に沿った内容以外、例を挙げられる。	敬意と丁寧な言い方またはアイコンタクトや聞き手に聞こえるような声の大きさなど基本的に行い、説明できる。
PD6	4-7	内容1点以上、表現3点以上	話題に関する基本的なことを述べる事が出来る。	話題についてなんでも説明ができる。	敬意と丁寧な言い方またはアイコンタクトや聞き手に聞こえるような声の大きさなど基本的に行い、説明できる。

図3 PDレベル

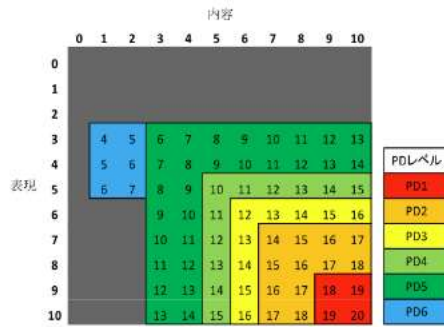


図4 内容・表現のスコアとPDレベルの対応

## CEFRとの対応

外国語の運用能力を測ることが出来る国際標準（CEFR）との対応を図5に示します。

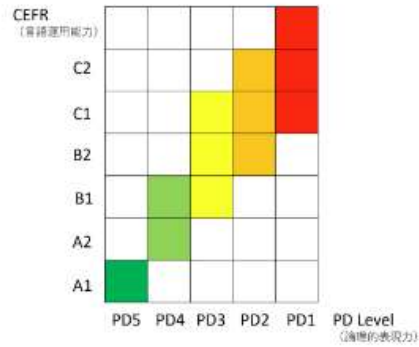


図5 CEFRとPDレベルの対応

## 成績証明書

PD検定®の成績証明書では、「内容」「表現」の各スコアおよびそれぞれの評価項目の達成度、PDレベルが示されます。

さらに、ディベートにおいて良かった点、改善点が文章で示されます。

英語で議論する力の証明だけでなく、試験を通したディベートの実践と成績表によるフィードバックでさらなる学習へのモチベーションにつながります。

### 成績表（例）※ダミーです

ペーパメントラリーディベート検定®  
Proficiency Debate Test of English and Expression

**OFFICIAL SCORE CERTIFICATE**

Name: **Chika Honda**

Summit ID: **00000117**

Test ID: **00010-001-001**

Test Date: **2023-04-01**

Date of Birth: **2003-06-01**

■ Your score    ● Average

Content: 0 / 10

Manner: 0 / 10

Total: 0 / 20

**PD LEVEL** **PD4**

**TOTAL SCORE** **12/20**

<b>Motion</b>	Recreating the dead in VR does more harm than recreating the dead in VR does not harm hearts.			
<b>Role</b>	Pro/Con/Mod			
<b>Matter</b>	5/10	<b>Manner</b>	5/10	
<b>Reasoning</b>	A	<b>Attitude</b>	S	
<b>Example</b>	B	<b>Eye Contact and Gestures</b>	A	
<b>Relevance</b>	A	<b>Clarity</b>	A	
<b>Role and Strategy</b>	A	<b>Time Management</b>	A	

**Comments**

Content points: VRを通して人の心が通されるという運動はよかったです。また、わかりやすいサインボードの操作も良い。『PM』に求められる役割を全て果たすことができていました。堂々の発表が、スピーチとともに聴衆に伝わるよう調整することができています。



【パラメンタリーディベート検定実施】

実施日	実施人数
2023年8月4日	4
2023年11月5日	1
2023年12月3日	3
2024年1月7日	1
2024年2月4日	1
2024年3月3日	1

**PD検定** パラメンタリーディベート検定®

2023年度

# 受験案内

オンライン(Zoom)開催



**第5回**

2023年11月5日(日)  
10:00 ~ 11:00  
申込締切  
10/26(木)

**第6回**

2023年12月3日(日)  
10:00 ~ 11:00  
申込締切  
11/23(木)



**第7回**

2024年1月7日(日)  
10:00 ~ 11:00  
申込締切  
12/26(火)

**第8回**

2024年2月4日(日)  
10:00 ~ 11:00  
申込締切  
1/25(木)

**第9回**

2024年3月3日(日)  
10:00 ~ 11:00  
申込締切  
2/22(木)

**受験料**

13,720円(税込)

**6,860円(税込) ※2023年度**



パラメンタリーディベート検定\* (PD検定\*) とは  
英語での論理的表現力を測る試験です。  
試験当日、主催者により各役割(PM, LO, MG, MO, PMR, LOR)を発表、1つの論題が与えられ、  
ディベートを行う。スピーチ規定時間(3分or2分)内にスピーチをし、内容をジャッジが判定します。

英語で議論する力を  
身につける

<https://kentel.pdpdo.org/>



**【認定教育ジャッジ】**

2022年度 試験	受験者数	合格者数	合格率
筆記	21	21	100%
ディベート実技	20	18	90%
ジャッジ実技	23	19	83%
2023年度 試験	受験者数	合格者数	合格率
筆記	8	6	75%
ディベート実技	7	7	100%
ジャッジ実技	13	6	46%



文部科学省後援 PDA 全国中学校・高校即興型英語ディベート合宿・大会 2023 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2023年8月4日(金)～5日(土)

(1日目) 中学生：3ラウンド、高校生：練習3ラウンド、予選1

(2日目) 高校生：予選2、予選3、キーノートレクチャー、レクリエーション、準決勝、決勝

会場：Zoomにてリモート開催

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

後援：文部科学省

助成：公益財団法人日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

協力：大阪公立大学



参加者数：中学生 97名 (14校・28チーム)、高校生 298名 (41校・89チーム)

#### 中学校

(茨城県) 清真学園高等学校・中学校、東洋大学附属牛久中学校 (千葉県) 翔凜中学校 (東京都) 品川女子学院中等部、獨協中学高等学校、東京都立大泉高等学校附属中学校、筑波大学附属中学校、(神奈川県) 湘南白百合学園中学校、栄光学園中学校 (愛知県) 南山中学校女子部、大成中学校 (兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校 (岡山県) 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 (徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校

#### 高校

(岩手県) 岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立一関第一高等学校 (山形県) 山形県立酒田西高等学校 (茨城県) 清真学園高等学校・中学校、東洋大学附属牛久高等学校 (栃木県) 宇都宮高等学校、栃木県立佐野高等学校、作新学院高等学校 (群馬県) 高崎市立高崎経済大学附属高等学校 (千葉県) 東邦大学付属東邦高等学校、翔凜高等学校、千葉県立船橋高等学校 (東京都) 品川女子学院高等部、獨協中学高等学校、山崎学園富士見高等学校、東京都立大泉高等学校 (神奈川県) 湘南白百合学園高等学校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、白鵬女子高等学校、栄光学園高等学校、聖光学院 (福井県) 福井県立藤島高等学校 (長野県) 長野県長野高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県屋代高等学校、長野県伊那北高等学校、長野県諏訪清陵高等学校 (岐阜県) 岐阜高等学校

(三重県) 三重県立四日市高等学校 (京都府) 京都府立嵯峨野高等学校 (大阪府) 大阪青凌高等学校、関西大倉高等学校 (兵庫県) 雲雀丘学園高等学校。神戸大学附属中等教育学校 (岡山県) 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 (広島県) ノートルダム清心中・高等学校 (徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校、徳島県立徳島北高等学校 (福岡県) 福岡県立城南高等学校 (鹿児島県) 鹿児島中央高等学校 (順不同)

開催趣旨：

〈中学生・高校生向けプログラム〉

本合宿・大会は、即興型英語ディベートの実践を中心としたプログラムで、集中的に「英語での発信力」、「論理的思考力」、「幅広い知識」、「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」を鍛えます。大学生・大学院生、PDA 認定教育ジャッジによる手厚い指導も伴い、効果的に上記スキルを向上させます。また他校生徒との交流も深まります。初心者の方も歓迎です。高校生向けのプログラムでは、合宿での集中実践の成果を効果的に発揮できるよう、後半には大会を設けています。

〈教員向けプログラム〉

本合宿・大会では、生徒のみならず、教員を対象としたプログラムを同時に進行させます。2022年度からの「論理・表現」をはじめ、授業に導入できる即興型英語ディベートの手法を知っていただく、また即興型英語ディベート実践を経験していただくプログラムとなっています。授業での導入を前提とするため、合宿では一つのセッションを50分としています。また、効果的なプログラムを共に開発するための意見交換会も設けています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

論題 1 : After-school club activities in schools should be abolished.

（学校における放課後のクラブ活動は廃止すべきである。）

論題 2 : The number of AI-equipped surveillance cameras should be increased.

（AI を搭載した監視カメラの数を増やすべきである。）

論題 3 : Volunteer work in schools should be mandatory.

（学校でのボランティア活動を義務化すべきである。）

論題 4 : Japan should privatize prisons.

（日本は刑務所を民営化すべきである。）

論題 5 : Patriotism should be emphasized in compulsory education.

（義務教育課程で愛国心を強調すべきである。）

論題 6 : Scholarships should be granted based only on financial situation, not on academic performance.

（奨学金は、成績ではなく経済状況のみに応じて与えられるべきである。）

論題 7 : In elections, only those who pass aptitude tests should be eligible to vote.

（選挙では、適正テストに合格した人のみ選挙権を持つべきである。）

論題 8 : In university entrance examinations, the ratio of comprehensive type selections (AO examinations) should be increased.

（大学入試では、総合型選抜（AO 入試）の比率を上げるべきである。）

## 1 日目

開会式では、まず今回の参加校が紹介されました。認定教育ジャッジの先生、スタッフの紹介、合宿スケジュールの確認、ルール諸注意を行いました。中学生・中学校教員の部、高校生の部（授業の部、課外活動の部 初心者、課外活動の部 一般）、高校教員の部（初心・一般、認定、受験）が同時進行で行われます。授業の部においては、学校の通常授業において即興型英語ディベートに取り組んでいる学校を対象とし、普段の授業への積極的な参加の成果を発揮する場、また合宿で学んだことを各校に持ち帰るシステムとなっています。



PDA 代表理事 中川智皓よりご挨拶



開会式の様子

中学生ラウンド1・高校生練習ラウンド1の論題は「学校におけるクラブ活動は廃止すべきである。」でした。教員の部ではラウンドをジャッジする先生、生徒の様子を見学する先生に分かれました。生徒たちはそれぞれの経験を参考にどのような議論ができるかブレーストシート（アイデア出しシート）にメモし、まとめていきました。ディベートが終了すると、他校の生徒と自己紹介をし、学校の様子やお互いの地元などについて語り合う姿が見られました。生徒にとっても身近な話題で、普段の生活から具体例を見つけてスピーチの中に取り入れる様子も見られました。



聖光 B VS 作新 D, 徳島北 B[ジャッジチーム]



相模原 B VS 屋代 D, 白鷗女子 A[ジャッジチーム] 伊那北 C VS 宇都宮 C, 酒田西[ジャッジチーム]



岐阜 C VS 長野 B, 相模原 D[ジャッジチーム]

中学生ラウンド2・高校生練習ラウンド2の論題は「AIを搭載した監視カメラの数を増やすべきである。」でした。犯罪の抑止やプライバシーの問題などの観点から、AIカメラの利点、欠点についての議論がありました。



ディベート後の交流の様子(伊那北 B VS 嵯峨野 C)

また、中高生と同じ論題で、中学教員や高校教員によるディベート実践も行われました。別の学校の教員とチームを組み、実際にディベートすることで生徒の感覚を掴んだり、ディベートのコツを掴んだりする機会となりました。



高校教員によるディベート実践

中学生ラウンド3・高校生練習ラウンド3の論題は「学校でのボランティア活動を義務化すべきである。」でした。ボランティア活動における当事者の自発的活動に依存するという性格から義務化はそぐわないのではないかとという視点やボランティアそれ自体のもたらす利益を重視する視点など多くの切り口から論題について考える様子が見られました。





中学・ディベート後の交流(清真 B VS 筑波 B・岡山大安寺 A)(神大附属 A VS 大成)

また、高校生練習ラウンド中は各テーブルで生徒にもジャッジ役を割り振り、他の生徒のディベートを聞いて客観的に勝敗を考える練習を行いました。ジャッジを初めて務めるという生徒もいましたが、事前に行ったジャッジレクチャーを参考にディベートを評価する体験は新鮮だった生徒も多かったようです。教員の部でもディベートが行われ、実際にディベーターを体験すると同時に、ジャッジの練習を行う機会が設けられました。

1日目の最後は、高校生の部の予選1が行われました。予選1の論題は「日本は刑務所を民営化すべきである。」でした。練習ラウンドでディベーターやジャッジを務めた経験を活かし、活発な議論が行われました。諸外国の例も考慮に入れながら、民営化の是非について財政や治安など社会全体を広く見渡した議論が行われました。

高校生の部・教員の部で熱い議論が交わされる中、中学生の部の閉会式が行われました。閉会式では、ベストチーム賞、ベストディベーター賞、ベストPOI賞の発表が行われ、受賞を喜び合い、健闘を称えました。



表彰式(中学生の部)



ベストディベーター賞・発表の瞬間

優勝チーム・神大附属 A

## 2日目

2日目は、各校の出欠確認の後、予選2が行われました。予選2の論題は「義務教育課程で愛国心を強調すべきである。」でした。「愛国心」がもたらす利益や害について分析して、スピーチを組み立てる様子が見られました。また、オンラインディベートにやや慣れてきたようで、積極的にPOIを行う様子もみられました。



長野 C VS 屋代 B



長野 B VS 北陵 B



東洋牛久 VS 宇都宮 B



諏訪清陵 A VS 白鷗女子 B



作新 B VS 相模原 B



ノートルダム清心 VS 松本県ヶ丘

論題に関連して、福岡大学の縄田健悟准教授からキーノートレクチャーをいただきました。「愛国主義」と「国家主義」の違いなど混同しやすい概念についての説明もあり、大変に興味を引く内容でした。レクチャーに興味深く耳を傾け、積極的に質問する生徒たちの様子が見られました。

- これを踏まえて、どう主張するか？ 10
- 主張A. 愛国心は悪くない  
→国家主義を適切に切り分ければ、悪くない。むしろ所属欲求の充足はよいもの。国の中では協力も生まれる。
  - 主張B. 愛国心は悪い  
→一緒にくっついていかな国家主義は外国嫌い、さらには戦争につながる。



福岡大学・縄田健悟准教授によるキーノートレクチャー

予選3の論題は「奨学金は成績ではなく経済状況のみに応じて与えられるべきである。」です。大学受験を控える高校生にとっては身近な話題であり、奨学金制度の現状を分析したうえで制度の目的やあるべき形についてスピーチを行う生徒の様子が見られました。



伊那北 VS 富士見



一関第一 B VS 岐阜 A

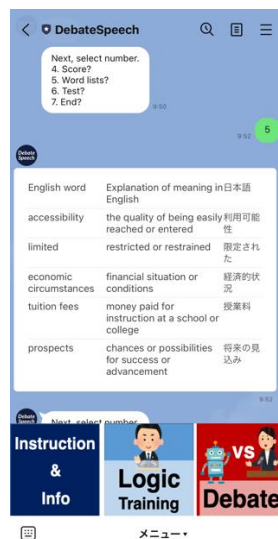
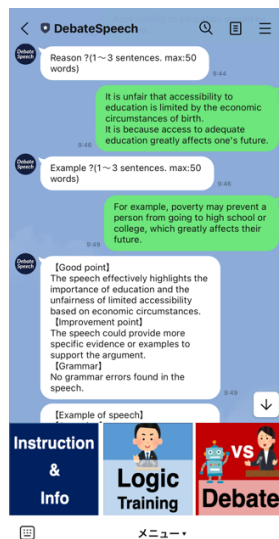


POI! (盛岡第一 B VS 神大附属 A)



ディベート後の交流(徳島北 A VS 鹿児島中央)

昼食後には Zoom でのレクリエーション「チーム対抗！ディベスピバトル！」が行われました。グループごとにモーションを考え、ハイスコアを目指してスピーチを組み立てました。評価には、PDA の開発した AI を用いたディベートの訓練システム“DebateSpeech”を用いました。時間の制約から短い時間とはなってしまいましたが、和気あいあいと意見を交わす様子も見られました。



DebateSpeech では入力したスピーチ文に対してフィードバックが自動で送信されます

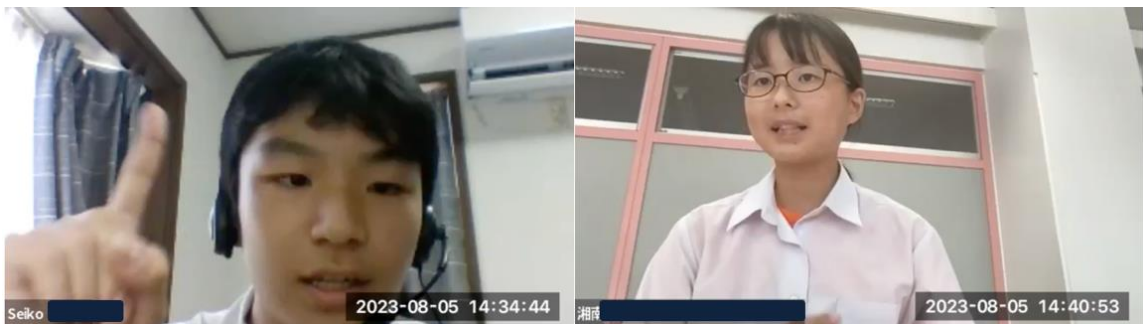


レクリエーションの後には、授業の部と課外活動の部（一般）の準決勝進出チーム及び課外活動の部（初心者）の決勝進出チームを発表しました。論題は「選挙では、適性テストに合格した人のみ選挙権を持つべきである。」です。珍しい論題ではありましたが、適性テスト導入のもたらす結果について、生徒たちは舌戦を繰り広げました。また、POIも活用して積極的に議論に参加する姿勢も見られました。



課外活動の部(初心者) 決勝戦(諏訪清陵 A VS 聖光 C)

最後は、授業の部と課外活動の部（一般）の決勝です。決勝戦の論題は「大学入試では、総合型選抜（AO入試）の比率を上げるべきである。」です。多くの観客が見守る中、出場者たちは堂々とディベートを行い、この2日間の合宿の掉尾を飾るにふさわしい議論が交わされました。見学生徒もプレパレーションタイムに論題について考え、ラウンドが始まるとジャッジになって勝敗を出すつもりで観戦しました。



課外活動の部(一般) 決勝戦(聖光 A VS 湘南)



授業の部 決勝戦(作新 D VS 白鷗女子 B)

決勝戦の後、表彰式と閉会式が行われました。各部門の優勝者やベストディベータ賞やベスト POI 賞を受賞した代表者が「2日間でたくさんディベートを実践することで成長できた。対戦チームやジャッジの皆さんに感謝したい。」と感想を述べました。



優勝チーム(作新 D・聖光 C・聖光 A)代表者の感想



ベストディベータ賞集合写真



ベスト POI 賞集合写真

結果

〈中学生の部〉

チーム賞

- 1位：神戸大学附属中等教育学校 A
- 2位：白湘南白百合学園中学校 A
- 3位：南山中学校女子部 A
- 4位：東京都立大泉高等学校附属中学校 B
- 5位：大成中学校
- 6位：筑波大学附属中学校 A
- 7位：神戸大学附属中等教育学校 B
- 8位：徳島県立城ノ内中等教育学校
- 9位：神戸大学附属中等教育学校 D
- 10位：神戸大学附属中等教育学校 C

ベストディベーター賞※☆は3回選ばれた生徒

- \_\_\_\_\_さん(筑波 A) ☆
- \_\_\_\_\_さん(神大附属 D) ☆
- \_\_\_\_\_さん(翔凜)
- \_\_\_\_\_さん(獨協 A)
- \_\_\_\_\_さん(大泉 B)
- \_\_\_\_\_さん(栄光 C2)
- \_\_\_\_\_さん(湘南白百合 A)
- \_\_\_\_\_さん(大成)
- \_\_\_\_\_さん(神大附属 A)
- \_\_\_\_\_さん(神大附属 B)
- \_\_\_\_\_さん(徳島城ノ内)

ベスト POI 賞※☆は2回選ばれた生徒

- \_\_\_\_\_さん(神大附属 A) ☆
- \_\_\_\_\_さん(清真)
- \_\_\_\_\_さん(牛久 A)
- \_\_\_\_\_さん(翔凜)
- \_\_\_\_\_さん(品川女子 A)
- \_\_\_\_\_さん(大泉 B)
- \_\_\_\_\_さん(栄光 A)
- \_\_\_\_\_さん(南山 A)
- \_\_\_\_\_さん(南山 B)
- \_\_\_\_\_さん(南山 C)
- \_\_\_\_\_さん(神大附属 C)
- \_\_\_\_\_さん(徳島城ノ内)

〈高校生の部〉

チーム賞（授業の部）

優勝： 作新学院高等学校 D

準優勝： 白鵬女子高等学校 B

3位： 作新学院高等学校 C、白鵬女子高等学校 A

チーム賞（課外活動の部 初心者）

優勝： 聖光学院 C

準優勝： 長野県諏訪清陵高等学校 A

チーム賞（課外活動の部 一般）

優勝： 聖光学院 A

準優勝： 神奈川県立湘南高等学校

3位： 福井県立藤島高等学校 B、徳島県立城ノ内中等教育学校 A

ベストディベーター賞（授業の部・課外活動の部初心者）※☆は3回選ばれた生徒

_____さん(一関第一 C) ☆	_____さん(長野 B)
_____さん(作新 C) ☆	_____さん(長野 C)
_____さん(酒田西)	_____さん(嵯峨野 B)
_____さん(牛久)	_____さん(嵯峨野 C)
_____さん(宇都宮 A)	_____さん(徳島北 B)
_____さん(相模原 B)	_____さん(作新 D)
_____さん(茅ヶ崎北陵 B)	_____さん(白鵬女子 A)
_____さん(聖光 B)	_____さん(大阪青凌)
_____さん(聖光 C)	_____さん(城ノ内 B)
_____さん(藤島 D)	_____さん(城南 B)
_____さん(屋代 B)	_____さん(諏訪清陵 B)
_____さん(諏訪清陵 A)	

ベストディベーター賞（課外活動の部 一般）※☆は3回選ばれた生徒

_____さん(清真) ☆	_____さん(藤島 A)
_____さん(伊那北 A) ☆	_____さん(藤島 A)
_____さん(盛岡第一 A)	_____さん(藤島 B)
_____さん(栄光)	_____さん(長野 A)
_____さん(湘南)	_____さん(神大附属 A)
_____さん(聖光 A)	_____さん(神大附属 B)
_____さん(柏陽 A)	_____さん(城ノ内 A)

ベスト POI 賞 (授業の部・課外活動の部初心者) ※☆は3回選ばれた生徒

_____さん(一関第一 C) ☆	_____さん(聖光 B)
_____さん(藤島 D) ☆	_____さん(聖光 C)
_____さん(作新 C) ☆	_____さん(伊那北 C)
_____さん(作新 D) ☆	_____さん(諏訪清陵 A)
_____さん(牛久)	_____さん(諏訪清陵 B)
_____さん(作新 B)	_____さん(岐阜 C)
_____さん(宇都宮 A)	_____さん(嵯峨野 A)
_____さん(佐野 A)	_____さん(嵯峨野 B)
_____さん(品川女子)	_____さん(船橋・四日市・雲雀丘 B)
_____さん(相模原 A)	_____さん(城南 C)
_____さん(茅ヶ崎北陵 B)	

ベスト POI 賞 (課外活動の部 一般) ※☆は3回選ばれた生徒

_____さん(盛岡第一 B) ☆	_____さん(獨協)
_____さん(柏陽 B) ☆	_____さん(湘南)
_____さん(屋代 A) ☆	_____さん(聖光 A)
_____さん(城ノ内 A) ☆	_____さん(長野 A)
_____さん(盛岡第一 A)	_____さん(神大附属 A)
_____さん(一関第一 A)	_____さん(神大附属 B)
_____さん(清真)	_____さん(徳島北 A)
_____さん(佐野 C)	

## アンケート（抜粋）

### 生徒の声（中学生）

- 他行の方と交流し、英語、議論について楽しみながら学ぶことができた。（東京都立大泉高等学校附属中学校・3年）
- 学びが多くとても楽しかったです。（品川女子学院中等部・3年）
- 沢山のディベートのやり方がそれぞれにあって面白かった。（徳島県立城ノ内中等教育学校・3年）
- 他校の人と一緒にディベートをしたり、ジャッジの方のアドバイスがためになった。（品川女子学院中等部・2年）
- 日々の練習での力を発揮することができてすごい楽しかったです。（神戸大学附属中等教育学校・3年）
- 楽しみながら英語を向上できるし、いろいろな学校の人と関われるのがよかったです。（東京都立大泉高等学校附属中学校・3年）
- ジャッジの方が的確なアドバイスをくださり、今後に向けた新たな目標を作ることができたと思いました。motionも大変興味深かったです。（南山中学校女子部・3年）
- 去年からの二回目の夏合宿でしたが、他の高校と交流したり、ディベートの改善点をジャッジの方に向けてもらえて良い経験になって楽しかったです！（岡山県立岡山大安寺中等教育学校・2年）
- はじめてでしたが、すごく楽しくでき、また、いろいろな学びがあったので、非常に参加して良かったと思っています。また参加したいです！また、もっと英語力をのばして、他の大会などにも出られたら出てみたいです！（清真学園高等学校・中学校・2年）
- 自分の英語力のなさを実感でき、自分の重点的に勉強しすべき点を理解できた。また、他校の方と気軽に話せてとても楽しかった。いい経験になった。（東京都立大泉高等学校附属中学校・3年）
- 今回たくさんの方々の学校と関わることが出来、とても楽しく有意義な時間になりました！ありがとうございます。（南山中学校女子部・3年）
- 今日1日だけでも試合を重ねるごとに成長できたと思うので良かったです。（筑波大学附属中学校・2年）
- 去年度の夏合宿で戦わせていただいたお相手に、またお会いできて嬉しかったです！（大成中学校・3年）
- とても実りのある大会だった。来年もぜひ参加したいと思う。（神戸大学附属中等教育学校・3年）
- とても楽しかったです！来年も参加したいです！（神戸大学附属中等教育学校・2年）
- 初めての大会で、ベストディベーター賞をいただけて嬉しかったです。フィードバックもいただけて、自分の成長につながったと思います。ありがとうございます。（神戸大学附属中等教育学校・3年）
- 他校と交流して、色々なことを知ることができ、良かった。（湘南白百合学園中学校・3年）
- 初めての大会で勝手が分からなかったが自分の言いたいことが結構言えて楽しかった。また、POIも初めてだったが結構投げられることも受けることもできて良かった。ジャッジコメントの前に相手校と論題について話したり雑談できたのもいい経験になった。（神戸大学附属中等教育学校・3年）
- 様々な学校と交流することができて、貴重な経験を得ることができた。（栄光学園中学校・3年）

### 教員の声（中学校）

- とてもよい経験になりました。役員の方、いろいろありがとうございました。
- 他校との交流を、生徒たちが楽しそうにしていた。
- 表彰が多くて、特に中学生に自信を持たせるために良かったと思います。
- 初めての参加でしたが、大変勉強になりました。全くの初心者ながらすぐに試合のジャッジに入り、不安も多い中でしたが、メインジャッジの先生がジャッジされている様子を拝見し、特にフィードバックのコメントでは大変参考になり、今後の授業活動につなげていきたいと思います。カメラ越しではありましたが、参加している生徒がイキイキとスピーチしている姿が大変印象的でした。また、教員ラウ

ンドでは、普段使っていない脳を機能させたような感覚で、「知のスポーツ」と呼ばれる所以が少し理解できたような気がします。また機会がありましたら参加させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

#### 生徒の声（高校生）

- あまり外部の方々とディベートの試合をする機会がなかったので、このような場を設けて頂いたことをとても嬉しく思いました。（山崎学園富士見高等学校・2年）
- 大会ということで、とても緊張感を持って真剣に取り組むことができました。初めて会う人とやったことのない論題でディベートをして、考えが深まり、知識も増えたので、とても自分のためになったと思います。とても楽しかったです。（京都府立嵯峨野高等学校・1年）
- 初めて参加しましたが、九州の方の学校と対戦したりして、学びが大きくとても楽しかったです。（岩手県立一関第一高等学校・1年）
- ディベート大会自体、たくさんは参加したことがなく、一試合、1試合とても緊張したが、レベルの高いディベーターのみなさんと議論できたことは自分の能力を上げることに大いに役立った。（清真学園高等学校・2年）
- どのジャッジの方々もとても丁寧に改善点、良いところを伝えてくださり、嬉しかったです。（栃木県立佐野高等学校・2年）
- 参加がしやすく、日頃の学習では出来ない非常に高密度な2日間でした。とても楽しかったです。ありがとうございました。（三重県立四日市高等学校・1年生）
- キーノートレクチャーがわかりやすかった。（長野県伊那北高等学校・2年）
- 夏休みを利用しての二日間のディベート試合は密度が濃く大きな経験を与えてくれました。参加して良かったと思います。（神戸大学附属中等教育学校・2年）
- 楽しかった。キーノートレクチャーを毎回やって欲しい。（長野県伊那北高等学校・2年）
- とても実りある経験になりました。沢山の対戦校さんとの交流やジャッジの先生方の意見を参考に今後もディベート活動を頑張っていきたいと感じました。ありがとうございました。（翔凜高等学校・2年）
- 色々な人とディベートが出来て楽しかった。たくさん視点から物事をみることができ、勉強になった。（徳島県立徳島北高等学校・1年）
- 自分の考えた論を、仲間と協力して組み立てて貰ったり、逆に仲間の反論を助けたりするのがチームスポーツであることを感じて楽しかったです。（長野県屋代高等学校・1年）
- 二日間で質の高い6試合もすることができて勉強になった。フィードバックで改善点を洗い出して次に繋げることができる大会でよかった。（福井県立藤島高等学校・2年）
- めちゃくちゃ楽しかったです。ディベートを何回もすることで英語を使う回数が増え、英語能力が上がったと思います。ありがとうございました！（作新学院高等学校・2年）
- 相手校がすごく強くて感動した。いろいろなところと交流できて楽しい。いろいろな社会問題についても考えることができて嬉しい。（岐阜県立岐阜高等学校・2年）
- 即興型ディベートではその場での対応力が問われるため、難しかったが、ジャッジの方々、対戦校の方々からたくさんの改善点を見つけることが出来たため、とてもためになった。（翔凜高等学校・2年）
- 今回の大会を通して、貴重な体験をたくさんすることができました。自分たちの良い点と至らない点を確認することができました。今回の大会で得た経験をこれからの練習に活かしていきます。（福井県立藤島高等学校・2年）
- とても楽しかったです。初めて本格的に他校とディベートを行うことができてとても充実した時間になりました。ありがとうございました。（神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校・1年）
- はじめて大きな大会にして、上手にできて嬉しかったり、もっとこういえればっていう悔しさもあって、今後のモチベーションにつながりました。（岩手県立一関第一高等学校・1年）



- 本当にためになり、自分のディベートに対する意識の向上につながる機会をくださりありがとうございました。（山崎学園富士見高等学校・1年）
- いつもと対戦相手とできた上にいつもよりたくさん一日に試合できたので楽しかった。（神奈川県立柏陽高等学校・1年）
- 他校と対戦することで自分がこれからどれだけ頑張って練習しないといけないかということがわかって、頑張りたいという気持ちももっと出てきました。（雲雀丘学園高等学校・1年）
- それぞれのディベートで学んだことをすぐに次のラウンドで実践できる(実践しようとトライできる)ので、成長できたと思います。（長野県屋代高等学校・2年）
- 自分の高校だけでディベートをしていると、どうしても視野が狭くなったり自身のスピーチも固定化してしまうが、大会を通して、自分のスピーチの足りていない部分や、正しいと思っていたスピーチの仕方考え直すことが出来、大会の良さを感じた。（福井県立藤島高等学校・2年）
- 他県の高校生とディベートを通して交流できてうれしかったのと、単純に「英語で第三者を説得させる」ということが新鮮でとても楽しかったから。（ノートルダム清心中・高等学校・1年）

#### 教員の声（高校）

- 様々な学校の論の立て方や日頃の努力が垣間見れました。またジャッジの良い経験になりました。
- 初めてジャッジを体験しコメントしたためいい経験になりました。
- 大会運営、お疲れ様でした。これだけのチームの大会運営は大変だと思いますが、地方の学校でも、数多くの全国の高校生と交流する機会が持てたことは有り難かったです。ありがとうございました。生徒にとっても、教員にとっても、たいへん有意義な経験になったと思います。
- たくさんの高校生のディベートをジャッジすることで、日頃の自分の授業をどのように改善すべきかとのヒントを得ることができました。また自分のコメント力の低さに気づき、自己課題も見つかりました。生徒たちは、他校生と交流したり、ディベートさせていただき、とても楽しそうでした。
- 生徒たちのモチベーションアップにつながる機会になりました。

ご支援、ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

以上

#### 写真



岩手県立盛岡第一高等学校



岩手県立一関第一高等学校





作新学院高等学校 C チーム・D チーム



神奈川県立柏陽高等学校



神奈川県立湘南高等学校



長野県屋代高等学校



栃木県立佐野高等学校



栄光学園高等学校ベストディベーター



福井県立藤島高等学校



ノートルダム清心中・高等学校



## 文部科学省後援 第9回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2023年12月23日(土)、24日(日)

(1日目) 予選4試合、(2日目) 準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：ハイブリッド型 東京大学+オンライン (Zoom)

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

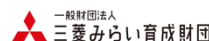
共催：東京大学生産技術研究所、大阪公立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、一般社団法人  
日本英語交流連盟、一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、

一般財団法人 三菱みらい育成財団



参加校 (現地) :

(北海道) 北海道釧路湖陵高校 (青森県) 青森県立青森高校 (岩手県) 岩手県立一関第一高校、岩手県立盛岡第一高校 (茨城県) 東洋大学附属牛久高等学校 (栃木県) 栃木県立宇都宮高校 (群馬県) 群馬県立前橋高校、群馬県立太田女子高等学校 (埼玉県) 埼玉県立浦和高校、埼玉県立浦和第一女子高校、さいたま市立浦和高校 (千葉県) 千葉県立船橋高校、東邦大学附属東邦高校、翔凜高校 (東京都) 筑波大学附属駒場高校、東京都立日比谷高校、東京都立富士高校、東京都立三田高校、千代田区立九段中等教育学校、渋谷教育学園渋谷高校、東洋英和女学院高等部、富士見高校、品川女子学院高等部、獨協高校 (神奈川県) 神奈川県立横浜翠嵐高校、神奈川県立湘南高校、神奈川県立柏陽高校、神奈川県立相模原高校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、聖光学院高校、栄光学園高校、浅野高校、慶應義塾高校、洗足学園中学高等学校、湘南白百合学園高校 (福井県) 福井県立藤島高校 (山梨県) 山梨県立甲府西高等学校 (長野県) 長野県長野高校、長野県屋代高校、長野県諏訪清陵高等学校 (滋賀県) 滋賀県立彦根東高校 (大阪府) 大阪府立北野高校 (奈良県) 奈良県立奈良高校 (徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校 (福岡県) 福岡県立城南高校 (熊本県) 真和高校 (鹿児島県) 鹿児島県立鶴丸高校、鹿児島県立大島高校 (静岡県) 静岡県立清水東高等学校

参加校 (オンライン) :

(青森県) 八戸聖ウルスラ学院高校 (宮城県) 仙台市立仙台青陵中等教育学校 (秋田県) 秋田県立本荘高校 (山形県) 山形県立山形東高校、山形県立東桜学館高校 (茨城県) 清真学園高校 (栃木県) 栃木県立宇都宮東校、作新学院高校 (東京都) 東京都立武蔵高校 (神奈川県) 神奈川県立多摩高校 (長野県) 長野県松本県ヶ丘高校、長野県伊那北高校 (岐阜県) 岐阜県立岐阜高校 (三重県) 三重県立四日市高校 (京都府) 京都府立嵯峨野高校、京

都府立鳥羽高校、京都市立堀川高校、京都橘高校（大阪府）関西創価高校（兵庫県）神戸大学附属中等教育学校、神戸市立葺合高校、雲雀丘学園高校（鳥取県）鳥取県立鳥取東高校、鳥取県立鳥取西高校（福岡県）福岡県立香住丘高校（熊本県）熊本県立人吉高校（鹿児島県）鹿児島県立鹿児島中央高校、鹿児島情報高校（沖縄県）沖縄県立前原高校

現地 49 校、オンライン 29 校、合計 78 校

開催趣旨：

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。（参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>）

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

予選 1：Japan should make university tuition free.

（日本は、大学を無償化すべきである。）

予選 2：Being fashionable brings more benefit than harm.

（おしゃれは、害よりも利益をもたらす。）

予選 3：To change Japan, it is better to be a business person than a politician.

（日本を変えるなら、政治よりも商売を選ぶべきである。）

予選 4：The U.S. should stop supporting Israel.

（アメリカはイスラエルへの支援をやめるべきである。）

準々決勝：Priority should be put on speed when deliberating on policy/decision making.

（政策／意思決定のために検討する際は、スピードを重視すべきだ。）

準決勝：Going to university abroad is better than going to university in Japan.

（国内よりも海外の大学に進学した方がよい。）

\*For this debate, a university refers to an undergraduate school, not a graduate school.

※本論題において、大学は学部であり、大学院ではない。

決勝：The upper limit of income should be 100 million yen and excess income should be redistributed.

（所得上限 1 億円を設けて、超過分は再配分すべきである。）

キーノートレクチャー講師：

- ・株式会社チェリオコーポレーション代表取締役社長 菅大介氏
- ・東京大学生産技術研究所特任教授 筒井 晴香氏
- ・公益社団法人笹川平和財団常務理事 茶野 順子氏



## 1 日目

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020 年大会からオンラインで開催していた PDA 全国大会ですが、今年は現地：東京大学生産技術研究所とオンライン：Zoom のハイブリッド開催となりました。東京大学には北は北海道、南は鹿児島まで全国津々浦々から 49 校の高校が集結しました。そして、メインホールのスクリーンには Zoom で大会に参加する 29 の高校が映し出されました。開会式では事前に参加校から提供された写真で作成された参加校紹介動画が流れ、大会ルールや、PDA 認定教育ジャッジの紹介、ジャッジによる生徒の評価方法や生徒によるジャッジの評価方法について説明が行われました。ルールの確認では、POI (Point of Information：ディベート中の質疑応答) の練習も行われ、現地とオンラインの生徒や教員が同時に POI を行いました。



開会式の様子



オンラインチームと挨拶

開会式が終わると予選の開始です。予選 1 の論題は「日本は、大学を無償化すべきである」でした。日本政府が多子世帯への大学の入学金や授業料を無償化にすることなどを盛り込んだ「こども未来戦略」を閣議決定するなど、大学無償化への動きが近年見られます。予選 1 ラウンド目ということで、初めは緊張している様子もありましたが、議論が進むにつれ緊張がほぐれ、議論が白熱していく様子が見られました。

大学無償化に対して、貧困層の教育機会の拡充という議論が出ていた一方で、大学を無償化するのではなく高校までを無償化するべきだという意見も見られました。勉強に対するモチベーションへの効果など、実際に進路を考える状況にある高校生ならではのリアルな視点からの意見もあり、議論が深められていました。



PDA 認定教育ジャッジ・POI (慶應 VS 長野)



握手 (東洋英和 VS 屋代)



鹿児島情報 VS 関西創価



京都橘 VS 神大附属



富士 VS 前原(ハイブリッド)



POI!(横浜翠嵐 VS 大島)



学校の様子(嵯峨野 VS 清真)



PDA 認定教育ジャッジのコメント(太田女子 VS 柏陽)

予選2の論題は「おしゃれは、害よりも利益をもたらす」でした。近年、「私らしさ」を表現する手段としてファッションを活用する人も多く見られるようになってきています。1ラウンド目でジャッジからもらったフィードバックを活かして、より良いスピーチをしようとする姿勢が多く見られました。「見た目」に関して、第一印象の大切さという意見が見られた一方で、ルッキズムに繋がってしまうという意見も見られました。また、低価格でおしゃれを楽しめるファストファッションに対して、環境問題を提起するチームもありました。様々な方向からおしゃれを分析し、白熱した議論が行われていました。



POI!(県立浦和 VS 盛岡第一)



POI!(茅ヶ崎北陵 VS 前橋)



POI (慶應 VS 諏訪清陵)



準備時間の様子(作新学院)

予選2と予選3の間にPDA代表理事中川よりレクチャーが行われました。レクチャーでは、三菱みらい育成財団助成のAIディベートシステムの紹介とESUJ(一般社団法人日本英語交流連盟)、HPDU(日本高校生パラメンタリーディベート連盟)について告知が行われました。英語を使う機会を欲している高校生は集中しながらレクチャーに聞き入りました。



AIディベートシステムの紹介



ESUJ 副会長岡田氏による告知

予選3の論題は「日本を変えるなら、政治よりも商売を選ぶべきである」です。実生活に直接結びつけることがやや難しい論題であったため、実際過去にどのようなことがあったかなどの具体例の提示が勝敗を左右していたように見られました。予選3ラウンド目ということもあり、さらなる積極性がみられました。二つ試合を終えた生徒たちはブラッシュアップされていました。自分たちが言いたいことに繋げることができるような質問を戦略的に行いました。



POI!(湘南白百合 VS 日比谷)



POI!(市立浦和 VS 青森)





画面越しに POI! (八戸ウルスラ VS 雲雀丘)



ディベート後の交流 (城ノ内 VS 長野)

予選4の論題は「米国はイスラエル支援をやめるべきである」でした。イスラエルとパレスチナをめぐる問題は、10月の紛争開始以降、今まさに世界中で議論の的となっています。1日目最後の試合ということで、ディベーター達は全力で議論に臨みました。ガザで多くの民間人がイスラエル軍の攻撃の巻き添えになっている事から、米国はイスラエルへの武器支援をやめるべきという主張がありました。一方で、ユダヤ人が長い間迫害されてきた歴史を踏まえるべきだという反論や、米国の中東・世界全体での影響力を維持し民主主義を守るべきだという主張も出ていました。様々な知識を組み合わせ、とても高度な議論を戦わせていました。



POI! (聖光 VS 長野)



うったえかける POI (藤島 VS 浅野)

大会1日目はクリスマスイブ前日。PDA 学生スタッフがサンタクロースに扮し、参加者にチョコレートのプレゼントを配りました。参加者同士交流を楽しみ、1日目が終了しました。



サンタクロースからプレゼント



サンタクロースと記念撮影

## 2日目

2日目の最初は、決勝トーナメントに進むチームの発表です。

まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を決め、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、教育的配慮をしつつ論理的に述べます。ジャッジのコメントに対して、どの程度生徒が納得できたか、またどの程度次への学習意欲を高めることができたかという観点で、生徒はジャッジを10段階評価します。平均点が高かった29名の先生が発表されました。おめでとうございます。上位に選ばれた先生は決勝トーナメントでジャッジを務めていただきます。次に、準々決勝に出場するチーム1位から8位までが発表されました。喜びの音が響き渡りました。

## 予選結果

予選1位	浅野高等学校	予選5位	筑波大学附属駒場高等学校
予選2位	長野県長野高等学校	予選6位	徳島県立城ノ内中等教育学校
予選3位	山形県立東桜学館高等学校	予選7位	聖光学院高等学校
予選4位	岐阜県立岐阜高等学校	予選8位	神戸大学附属中等教育学校

準々決勝の論題は「政策／意思決定のために検討する際は、スピードを重視すべきだ。」でした。プレパレーションの時間は、株式会社チェリオコーポレーション代表取締役社長の菅大介氏によるキーノートスピーチが行われました。在籍していたスタンフォードの校風「多様性を大事にする」が今の社風に繋がっていると話され、実際に多様性をイメージさせる「レインボーカラー」を製品に取り入れており、多くの人々に多様性への理解を深めて欲しいとメッセージが伝えられました。現在認知の低い“ALLY(支援者)”を増やしていくという目的のもと、サントリーホールディングスや日本コカ・コーラと協力し、飲料業界で活動を行っており、経済同友会と共同で活動を行っていくことも計画しているそうです。生徒から「学生は何を意識して活動に参加するべきなのか？」など質問の手が上がりました。単にディベートをするだけでなく、自分たちはどのように関係することができるのかや、ある事象が起こった背景についてその歴史などを知ろうとする「探究心」が見て取れました。



菅氏によるキーノートレクチャー



チェリオの飲料水と記念撮影



準々決勝は4つの会場で行われました。そのうち3つの会場では、現地対オンラインのハイブリッド対戦となりました。予選以上にPOIが活発に出され、多くの生徒が観戦する中堂々とスピーチを行いました。しっかり調べたり、コンセンサスをとる努力をしたりすることと、とにかくスピードを重視し、何か課題が生まれてもそれをさらにスピーディに乗り越えていく方がより多くの課題を解決できるのではないかと、など時間をかけることとスピードを重視することそれぞれのメリット・デメリットについて具体例を交えながら白熱したディベートが展開されました。



POI! (聖光 VS 長野)



東桜学館 VS 城ノ内



筑駒 VS 岐阜



画面越しの握手 (浅野 VS 神大附属)

準々決勝終了後は、お昼休みです。現地では大きな輪を作って学校間のプレゼント交換が行われました。プレゼント交換をきっかけにコミュニケーションも活性化しました。オンラインでは、ZOOMのブレイクアウトルームを使った生徒同士の交流が行われました。



プレゼント交換



他校生徒と仲良くなりました



画面越しに交流 (東桜学館)

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「国内よりも海外の大学に進学した方がよい。」です。準備時間の間、東京大学生産技術研究所特任教授筒井晴香氏に準々決勝の論題に関するレクチャーをしていただきました。特に現代のように技術が発達した時代こそ「ゆっくり考えること」が重要であるということについてお話いただきました。一見それは「即興型」英語ディベートのアンチテーゼのようで、実はこのディベートを通して自分の中で社会課題やそのトピックについてじっくり考えるきっかけになっているのかもしれません。

準決勝では、日本でしか学べないこと、海外でしか学べないことなどのほかに入学料や学費などの経済面での差についても言及がありました。大学ランキングやその背景を用いて説明したり、オンライン授業などの増加を描写しながら学問的には場所が関係なくなってきたことについて説明したり、甲乙つけ難い準決勝となりました。



筒井先生によるキーノートレクチャー



堂々とスピーチ



準決勝でも POI で質疑応答



メモをとりながらスピーチを聞きます

準決勝の後にはついに決勝戦、そしてそれと同時に3位決定戦が行われました。論題は、「所得上限1億円を設けて、超過分は再配分すべきである。」でした。また、決勝、3位決定戦の準備時間の中に、公益社団法人笹川平和財団常務理事である茶野順子氏にレクチャーをしていただきました。準決勝のテーマにもなっている海外の大学での学びやその生活についてエピソードを交えながらご解説いただきました。留学や海外進学を選択肢として考えていなかった生徒にとっては新たな選択肢に、元々海外で学びたいと考えていた生徒にとってはその具体的手段について知る機会になりました。



茶野氏によるキーノートレクチャー

レクチャーが終わり、いよいよ最後の試合が行われました。肯定側からは植民地支配など歴史的に生み出された持てる者と持たざるものの差異は非正義であって、貧困層の人々を富の再分配によって救う必要があるという話が出されました。一方で否定側は、1億円の所得制限を設けると、富裕層がタックスヘイブンに移動し、仮に能力があっても1億円を超えて働かなくなることから、国の経済にとって悪影響となることを指摘しました。積極的なPOIのやり取りが見られ、甲乙つけがたい接戦となりました。



ジェスチャーを用いながらスピーチ(決勝)



ジャッジブレイクした教員による進行



3位決定戦



POIの応酬がつづきます

決勝戦の後、表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われると同時に、文部科学省・外務省後援 第9回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権を手に入れた学校も発表されました。



## 第9回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会結果

〈チーム賞〉

優勝 聖光学院高等学校

準優勝 浅野高等学校

3位 筑波大学附属駒場高等学校

準決勝進出チーム (4位)

徳島県立城ノ内中等教育学校

準々決勝進出チーム

長野県立長野高等学校

山形県立東桜学館高等学校

岐阜県立岐阜高等学校

神戸大学附属中等教育学校

9位 岩手県立一関第一高等学校

10位 福井県立藤島高等学校

11位 神奈川県立横浜翠嵐高等学校

12位 さいたま市立浦和高等学校

13位 東京都立日比谷高等学校

14位 栃木県立宇都宮高等学校

14位 雲雀丘学園高等学校

14位 栃木県立宇都宮東高等学校



優勝 聖光学院高校



準優勝 浅野高校



3位 筑波大学附属駒場高校

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

〈授業導入優秀賞〉

- ・福井県立藤島高等学校
- ・神奈川県立相模原高等学校
- ・獨協中学高等学校

〈授業導入賞〉

- ・八戸聖ウルスラ学院高等学校
- ・仙台市立仙台青陵中等教育学校
- ・秋田県立本荘高等学校
- ・山形県立東桜学館高等学校
- ・山形県立山形東高等学校
- ・清真学園高等学校
- ・栃木県立宇都宮高等学校
- ・群馬県立太田女子高等学校
- ・さいたま市立浦和高等学校
- ・品川女子学院高等部
- ・渋谷教育学園渋谷高等学校
- ・神奈川県立多摩高等学校
- ・神奈川県立横浜翠嵐高等学校
- ・長野県屋代高等学校
- ・長野県諏訪清陵高等学校
- ・長野県長野高等学校
- ・京都市立堀川高等学校
- ・京都府立嵯峨野高等学校
- ・大阪府立北野高等学校
- ・神戸市立葺合高等学校
- ・福岡県立城南高等学校
- ・福岡県立香住丘高等学校
- ・真和高等学校
- ・熊本県立人吉高等学校
- ・鹿児島県立大島高等学校



＜その他個人賞＞（多数、個人名は略）

・ジャッジ賞、ベストディベータ賞、POI賞、文部科学大臣賞（ベストスピーカー賞）



ベストジャッジ賞



ベストディベータ賞



ベスト POI 賞



文部科学大臣賞

以上の結果を受け、第9回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の6校に進呈されました。

〈1位～3位〉 聖光学院高等学校、浅野高等学校、筑波大学附属駒場高等学校  
〈授業導入優秀賞〉 福井県立藤島高等学校、神奈川県立相模原高等学校、獨協中学高等学校

## キーノートレクチャーの感想 (抜粋)

- ・なかなか専門家の話を聞くことがないので、とても勉強になった。(熊本・真和)
- ・普段では知ることのできない内容を聴けてよかった。(群馬・前橋)
- ・海外での経験を今に役立ててる方や未来の日本に関わる研究をされている方のお話が聞けて、興味深かった。(埼玉・浦和第一女子)
- ・論題提示の背景が理解できて議論の要点を押さえて論点を整理する一助になったと思う。(長野)
- ・社会的な議題の講義に絞られていて、すごく参考になりました。ここで出た情報をディベートでも活用していきたいです。(鳥取・鳥取西)
- ・普段自分では調べない分野についてお話を聞くことが出来て自分の知識を広げることが出来ました。(東京・富士見)
- ・キーノートスピーカーのお話を聞いたおかげで、今回の論題だけでなく、様々な事物に対する新しい視点を持つことができたと思います。(奈良・奈良)
- ・目覚ましいキャリアの貴重な話を聞けてとても良い機会でした。自分の知らない世界の奥深い話を聞けてとても興味深かったです。(神奈川・柏陽)
- ・テレビ番組や新聞などで見る時事的で広義的な問題や取り組み、考え方については知っていたが、今回のキーノートレクチャーを通して各企業・団体が取り組んでいることについて知ることができよかった。(岩手・一関第一)
- ・様々な分野の最先端の方々のお話を聞くことができ、大変素晴らしい機会になった。(長野・諏訪清陵)
- ・特に筒井先生のキーノートレクチャーが印象に残っています。elsi についての興味が深まりましたし、決断は必ずしも急がなくて良いと聞けて良かったです。(埼玉・浦和一女)
- ・一つのことについて深く掘り下げて聞くことはあまりないので、新しい知識を得られてとても貴重な機会となりました。(福岡・城南)
- ・大変興味深く、特に ELSI に関して更に知見を得たいと思いました。(東京・東洋英和)
- ・とても興味深かったです。特にチェリオ様のレクチャーで、政治と商業の観点でのディベートとよく繋がって、興味深かったです。(兵庫・雲雀丘)
- ・海外経験があり、また成功してる方々の話はとてもためになりました。論題にそってレクチャーしてくれてる所が有難かったです。(鹿児島・鹿児島情報)
- ・いろいろなところで活動されている方のお話を聞けて、とても興味深かった。特に、筒井さんのキーノートレクチャーが自分にはない考えで、共感し納得した。(秋田・本荘)
- ・とてもタメになりました。3人の先生方の話を「社会を変えるために自ら行動するが大事だが、ゆっくり立ち止まって見直すことも大事だ」ということだと感じました。心に留めて生きたいです。(秋田・本荘)
- ・チェリオさんが他の飲料会社と協力して活動したという話がとても興味深かったです。(神奈川・慶應)

- ・すべて私が興味のある話題に関してのレクチャーだったので、レクチャーの受けごたえがあった。LGBTQ の話題や、海外留学支援について、それぞれの視点から聞けたので、有効に活用していきたい。特に、笹川財団の奨学金に関しては、返却性でないのが魅力的だと思った。(青森・青森)
- ・ELSI のレクチャーのおかげでいちばん難しいと感じたモーションの論点について考えやすくなりました。(神奈川・相模原)
- ・とても貴重な機会をありがとうございました。3 番目の茶野さんのレクチャーで、海外留学のために、返さなくても良い奨学金があるということを初めて知りました。また、海外留学なんて、考えたこともなかったので、自分の視野を広げる良い機会となりました。ありがとうございました。(鹿児島・鹿児島中央)
- ・最近はいかに早く問題を処理するかという能力が問われる風潮にある中、じっくりと物事を考えることを大切だとする意見を投じていたのが、同じ考えを持っていた私にとって嬉しかったです。(神奈川・相模原)
- ・ディベートに関してというより、社会勉強として学べる点が多くあった。国際的な視点から、今後社会で活躍する際の考え方や現在の課題の捉え方について非常に勉強になり、感銘を受けた。(青森・青森)
- ・普段、こういった話を聞くことがないのでとても良い経験になりました。ディベートには直接は関係ないものの、ディベートをするうえでの考え方や将来にとってとても大切なことだと思うので、これから活かしていきたいです。(栃木・宇都宮東)
- ・プロフェッショナルな方々のお話を直接聞ける機会はあまりないので、貴重な経験でした。(教員)
- ・菅さんの取り組みが、実際の企業の取り組みや今後の展望を知ることができて、ためになった(教員)
- ・生徒の将来や進路に影響を与えるような強いインパクトがあった。(教員)

## アンケート (抜粋)

### 【生徒の声】

- ・とても楽しくてたくさんのことを学ぶことができ、とても良かったです。また参加したいです。(静岡・清水東)
- ・経験済みの議題もあれば、全く関わったことのないディベートもあり、とても楽しかったです。(埼玉・県立浦和)
- ・刺激を受ける内容ばかりでとても勉強になり良かったです。(神奈川・茅ヶ崎北陵)
- ・自分が思いつかない論題だったり、いろんな考え方ができる論題で面白かった。キーノートレクチャーも他のディベートの論題に生かせるないようで面白かった。(茨城・牛久)
- ・全国各地の普段戦うことのない高校とも戦うこともでき友人関係も広げることができたのでとても有意義だったと思う。(神奈川・柏陽)

- ・2日間色々なことを学べたりいろいろな高校と関わることができたりして楽しかったです。  
(東京・三田)
- ・はじめての対面試合の機会をくださりありがとうございました。一生の思い出になり、大学でも続けたいとおもえました。ありがとうございました。(鹿児島・大島)
- ・面白い議題が沢山あって新たな考え方も生まれたので、ためになりました。PDAの大会には参加したことがあったけど、対面方式で試合をするのはほとんどしたことがないので、新たな経験となり楽しかった。また、プレゼント交換などのイベントがとても楽しかった。(千葉・翔凜)
- ・ディベートの考え方がディベートの中だけで終わるのではなく社会に出ても活かせるということが実感でき、より一層意欲が湧いた。(京都・堀川)
- ・初の全国大会でしたが、回を重ねるごとに上達する実感を得ることができました。また、試合後からジャッジの講評までの時間が短く、どこを改善すれば良いのかがわかり、今回の大会を経て上達することが出来たと思います。(東京・日比谷)
- ・今回は初めてオフラインで参加する事が出来て嬉しかったし楽しかったです。また実際に他校のスピーチを聞いているとオンラインとは違った迫力があり、自分にとっても勉強になりました。motionが面白くて楽しくディベートが出来ました。ありがとうございました。(東京・富士見)
- ・多くの高校と触れ合える良い機会であった。また参加したい。(長野・諏訪清陵)
- ・初めて全国大会に出場して日本全国の素晴らしい生徒たちとディベートができとても良い経験になった。もっと頑張らないといけないなと改めて感じた。(鹿児島・鹿児島情報)
- ・青森から現地に実際に来てみて本当に良かったと思った。上位校のレベルを知ることができ、自分のモチベーションにしたいと思う。(青森・青森)
- ・とても楽しかったです！ジャッジの方や、大会の運営に関わってくださった方々には感謝しかありません！二日間ありがとうございました！(奈良・奈良)
- ・ディベート楽しかったです。素晴らしい機会をありがとうございました。(滋賀・彦根東)
- ・今までずっとオンラインでしたが、初めてのPDA対面大会でとても楽しかったです。現地にはいないと伝わらないデリバリーの力など、熱量も伝わってきて、やっつけても見ていてもとても楽しいディベートでした。大会を企画、開催してくださり、ありがとうございました。(神奈川・湘南白百合)
- ・県大会での悔しさを糧に、この大会に向けて努力してよかったと心から感じられる収穫を多くもらえる素晴らしい時間でした。ありがとうございました。(岩手・一関第一)
- ・ディベートはもちろん、キーノートレクチャー、プレゼント交換もとても楽しかったし、勉強になりました。ありがとうございました。(鹿児島・鶴丸)
- ・良い学びになり、人生経験をつむうえで良いシーンになったと思うので、意義ある経験でした。(神奈川・多摩)

- ・今後の糧になることをたくさん教えてもらえて大変有意義な大会で、ずっとディベートを続けたいと思った。(群馬・太田女子)
- ・参加しなかったら得られなかった新しい視点をたくさん見つけられました。また、どのように主張を展開させると強いかなども学ぶことができました。(福岡・城南)
- ・来年ももう一度やりたいと思いました。(鳥取・鳥取東)
- ・普段はなかなか会えないような日本中の方とディベートと合流ができ、非常に楽しかった。ジャッジの方からの的確なアドバイスをいただいたので、これからのディベートに活かしていきたいと思う。(奈良・奈良)
- ・やはり強い相手が多く、とても勉強になりました。また、交流がとても楽しかったです！オンラインという事でその場の雰囲気を感じられなかったのが悔しかったです、とても貴重な体験となりました！(鹿児島・鹿児島情報)
- ・色々キャッチーで面白いと思いました。自分でディベートをやったり、人のディベートを見ていると、一見何も繋がっていないような話や 이슈 に帰結することがあり、それも筋が通っているので物事の複雑さがわかる論題だった。(千葉・県立船橋)
- ・zoomでの交流会等、遠隔の者も楽しめる工夫、ありがとうございました。大会はもう少しピリピリしているのかと心配していたのですが、終始楽しかったです。開催していただき、本当にありがとうございました。(栃木・宇都宮東)
- ・様々な種類の論題でディベート出来てとても勉強になったし、楽しかった。またジャッジの先生方もとても優しく試合をして楽しかった。(長野・松本県ケ丘)

#### 【教員の声】

- ・私が高校生の時から選手として参加しており、今回は教員として参加させていただき、生徒の時からお世話になっている学校とも交流できてよかったです。
- ・今回の経験で生徒のやる気に火がついたようです。大変示唆に富み、有意義な機会をありがとうございました。
- ・生徒にとっても教員にとっても大いに刺激をいただけた大変貴重な機会になりました。運営の皆様、このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。
- ・社会情勢を知らないと難しい論題があったので、生徒がニュースチェックする動機づけになったと思います。
- ・生徒達の成長を感じました。ジャッジの方々から頂いたコメントで自信がついた生徒もいます。ありがとうございました。
- ・勝ち負けにとらわれず、参加生徒が楽しんでいました。
- ・ハイレベルな試合に参加させていただき、生徒たちはとても良い刺激を受けてくれました。運営して下さった皆様本当に感謝申し上げます。機会いただきましてありがとうございました。
- ・毎回、とても有意義な会です！1年の中で一番学びが多い会だと思っています。

以上





## 文部科学省・外務省後援

# 第9回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート

## 世界交流大会 2024 報告書

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

### 日程：

2024年1月19日(金)、20日(土)

### 会場：

オンライン開催 (Zoom)

主催：	一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
共催：	大阪公立大学
助成：	公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、 一般財団法人 三菱みらい育成財団
後援：	文部科学省、外務省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、 一般社団法人日本英語交流連盟

参加校とディベートチーム：13か国 26チーム (日本6チーム、海外20チーム)

日本	聖光学院高等学校
日本	浅野高等学校
日本	筑波大学附属駒場高等学校
日本	福井県立藤島高等学校
日本	神奈川県立相模原高等学校
日本	獨協中学高等学校
モロッコ	Morocco Debate Association ※
ネパール	Ripumardini Sainik Mahavidyalaya ※
カメルーン	Zemneh High School 2チーム ※
ウガンダ	Trinity College Nabbingo
ウガンダ	Code High School
ウガンダ	Debate Cranes

コロンビア	American School 2チーム
フィリピン	Caraga Regional Science High School
フィリピン	Xavier School San Juan
ルーマニア	CN Al Papiu Ilarian
ルーマニア	National College Andrei Saguna ※
ポーランド	Schools of Communications in Cracow 2チーム
タイ	Prince of Songkla University Demonstration School 2チーム
モンゴル	Hobby School of Ulaanbaatar
トリニダード・トバゴ	The Oxbridge International School
ジャマイカ	Hampton School

※=当日参加できなかったチーム

## 大会趣旨

昨今、グローバル化の加速により、多様な文化や考え方を理解し、グローバル社会で貢献できる人財の育成が求められています。

本大会では、パラメンタリーディベートを通して、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、コミュニケーション力など複数の力を発揮し、様々な国の人と同じ土俵で議論し、成長する機会を提供します。キーノートスピーチなど最新の講演も織り交ぜ、グローバルに活躍できる人財育成とすることを目的とします。ディベートという手法を通して効果的な国際交流を図るプログラムであります。また、スケジュールも国際会議、国際学会に似たものとし、高校生にとって、将来的にこのような世界の舞台に参加するイメージや各々の目標を持ってもらえれば幸甚です。なお、本大会では、文部科学省助成調査研究の結果を踏まえ、通常の授業でできる即興型英語ディベートのフォーマットを用います。そうすることにより、クラブの生徒に加え、一般の生徒も参加しやすい形態となっています。

**論題**（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）

予選 1 : Living in rural areas is better than living in urban areas.

都会で暮らすよりも田舎で暮らすほうが良い。

予選 2 : Zoos should be banned.

動物園を禁止すべきである。

予選 3 : Disaster-affected marginal villages should move to other cities rather than rebuild.

被災した限界集落では、復興よりも他市への移住をすべきである。

\*A marginal village is a village with over half the residents over the age of 65.

\*限界集落とは、村民の半分以上が 65 歳以上を占める集落のことである。

予選 4 : African countries should prioritize environmental protection over economic development.

アフリカの国々は、経済発展よりも環境保護を優先すべきである。

準決勝 : Politics is better done by AI than by humans.

政治は、人間が行うよりも、AI が行った方がよい。

決勝 : STEM education is more important than language education for high school students.

高校生にとって STEM 教育は語学教育よりも重要である。

キーノートスピーカー :

Somporn Chuai-Aree 氏

Assistant Professor, Prince of Songkla University, Thailand



### 参加校紹介写真



ルーマニア



ポーランド



ポーランド



モンゴル



ウガンダ



ウガンダ



ウガンダ



コロンビア



トリニダード・トバゴ



タイ



タイ



モロッコ



ジャマイカ



聖光学院高等学校



筑波大学附属駒場高等学校



福井県立藤島高等学校



神奈川県立相模原高等学校



獨協中学高等学校



浅野高等学校

## 1 日目（開会式、予選 3 ラウンド、文化交流、カルチャーナイト）

第 9 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会が始まりました。開会式では PDA 代表理事の中川智皓から挨拶と各国のチーム紹介（13 ヶ国から 26 チーム、日本からは 6 チーム）がありました。その後ディベートのルール説明がありました。大会 1 日目は予選が 3 ラウンド、国際交流、カルチャーナイト（世界の国々の文化紹介）が行われました。開会式では、参加校の紹介動画を視聴し、一緒にディベートをする様々な国の仲間を確認しました。ルールの確認では POI（Point of Information：ディベート中の質疑応答）のポーズを練習し、相互理解を深める方法について確認しました。



PDA 代表理事 中川による挨拶

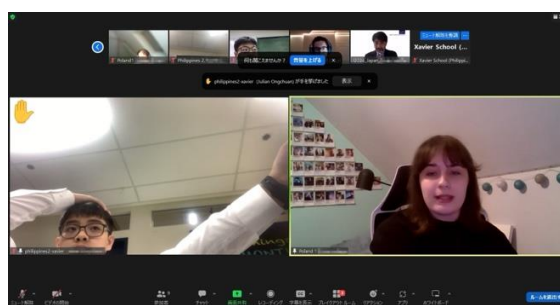


POI の練習

予選ラウンド 1 では、お互い緊張している様子も見られる中、POI を交わしながら議論を交わしました。田舎と都会のどちらに住むべきかという問いに対し、肯定チームが「田舎の方が安全だ」と主張し、否定チームが「都会の方がヘルスサービスは充実している」と主張し、白熱したテーブルもありました。他にも環境面や教育面など様々な観点から田舎と都会について議論が行われ、ディベートが終わると、自分たちの住んでいるところは田舎か都会かなど論題をきっかけに交流を深めました。その後、ジャッジの先生からフィードバックを受け、次のラウンドに向けた課題について話し合うチームもありました。



POI！（タイ 2 VS コロンビア 2）



POI！（ポーランド 1 VS フィリピン 2）





交流（タイ 1 VS 聖光）



ジャッジコメント（獨協 VS ポーランド 2）

予選 2 は動物園を禁止すべきかどうかに関する論題でした。その後の交流で、「動物園がない」「動物園はあるけど行ったことがない」「動物園はないが、動物のいる自然公園ならある」など、バックグラウンドが異なることを知り、「そこには文化的な背景も関わっていると思う」など、論題やディベートを通して視野を広げる場面がありました。



ポーランド 2 VS ジャマイカ



POI! (藤島 VS トリニダード・トバゴ)



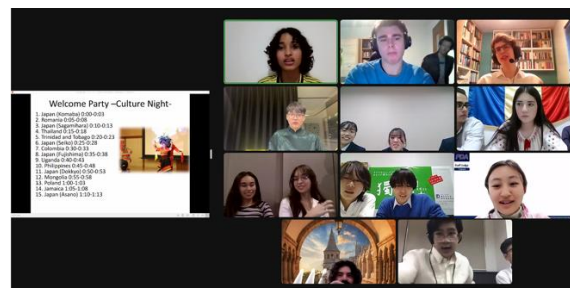
コロンビア VS ルーマニア 1



聖光 VS フィリピン 1



握手（ポーランド 1 VS 相模原）

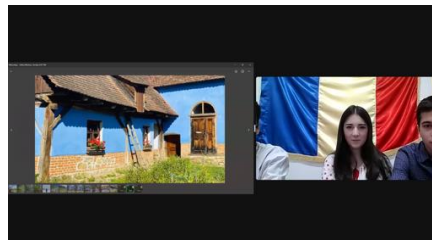


論題に関してディベート後に交流

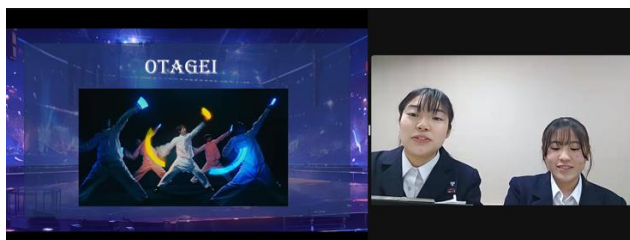
予選2ラウンド後には、各チームが自国の文化を紹介し、異文化理解を促進する「カルチャーナイト」が行われました。各国の食文化、サブカルチャー、自然などについて紹介が行われ、文化紹介を聞く参加者たちが、その演出や画像などに対する興奮する様子が画面越しに伝わりました。



筑波大学附属駒場高等学校



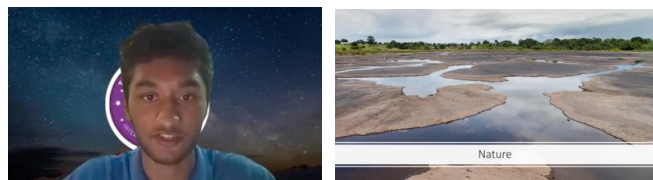
ルーマニア



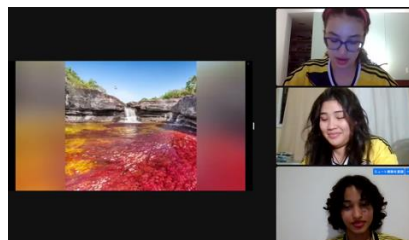
神奈川県立相模原校高等学校



タイ



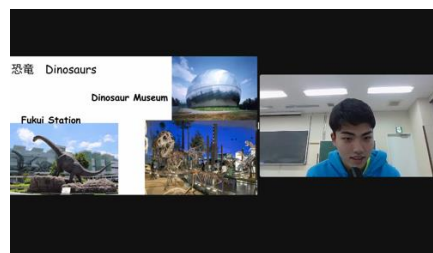
トリニダード・トバゴ



コロンビア



聖光学院高等学校



福井県立藤島高等学校



ウガンダ



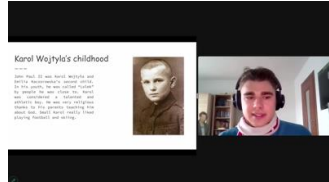
フィリピン



モンゴル



獨協中学高等学校



ポーランド



カルチャーナイト後、予選ラウンド3が行われました。令和6年能登半島地震で再び議論となっている限界集落の復興と移住について議論しました。被災後の復興資金の問題や再び災害に遭うリスクなど具体的な議論が行われました。海外のチームも「テレビやSNSなどでよく知っている」「自分たちが住むところは滅多に地震はないが他の災害ならある」などお互いの国の状況について詳しく知る機会となりました。



コロンビア2 VS モンゴル



ディベート後の交流（相模原 VS 浅野）



POI!（獨協 VS フィリピン1）

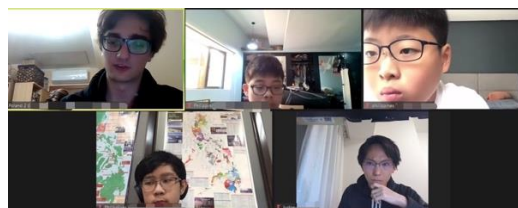


## 2日目（予選、準決勝、決勝、キーノートスピーチ、閉会式）

2日目は予選ラウンド4からスタートしました。論題は「アフリカの国々は経済発展よりも環境保護を優先すべきである。」でした。実際にアフリカのチームが参加している世界交流大会だからこそ、どのチームも課題を身近に感じたようで、非常に議論が盛り上がりました。当事国のチームからは自分たちが置かれている状況を含めながら、そのほかの国のチームも自らの持ちうる知識をフル稼働させながら、ディベートを展開していました。ディベート終了後も論題について議論を深める姿が見られ、国際問題に対する世界の高校生たちの関心を高める機会にもなりました。



モンゴル VS 藤島



フィリピン2 VS ポーランド2



トリニダード・トバゴ VS タイ2



浅野 VS 筑駒 ジャッジ: ルーマニア



タイ1 VS コロンビア2



握手 (ジャマイカ VS コロンビア1)



フィリピン1 VS 相模原



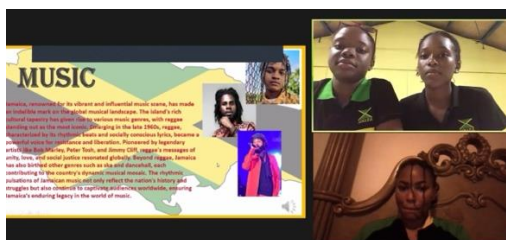
握手 (ルーマニア1 VS 獨協)

予選最終戦の準備時間には、教員が交流する機会も設けられました。英語科の教員に加え、数学科などの教員も参加しました。各国の教育システムについて共有し、それぞれが授業の改善にも生かすことができるようなヒントを学ぶ機会となりました。

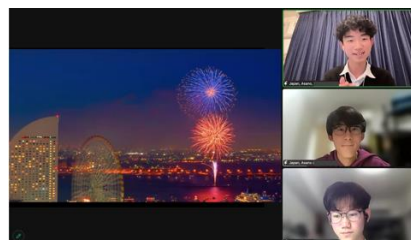


教員集合写真

2日目の昼休みは、昨日に引き続きカルチャーナイトを行いました。2日目には、ジャマイカと浅野高校がプレゼンテーションを行いました。ジャマイカの高校は有名な歌を歌い、非常に盛り上がりました。浅野高校は高校のある横浜を紹介しました。各地の名所や文化を学ぶ機会となりました。その後は、自由な交流の時間が設けられました。各国の生徒が他の国の生徒に対して、質問をしあうなど異文化交流を楽しんでいる姿が見られました。



ジャマイカ

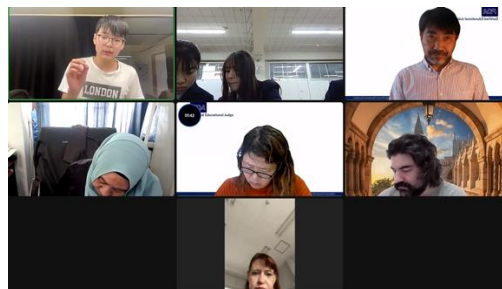


浅野高等学校

そして休憩をはさみ、緊張のブレイクアナウンスメント（予選の結果発表）が行われ（結果は下記）、準決勝が始まりました。準決勝の論題は、「政治は、人間が行うよりも、AIが行った方がよい。」でした。準決勝と同時に、第5位から8位までのチームも準決勝と同じ論題で、Exchange ラウンドを行い、熱い議論を交わしました。



浅野 VS 筑駒



モンゴル VS 相模原



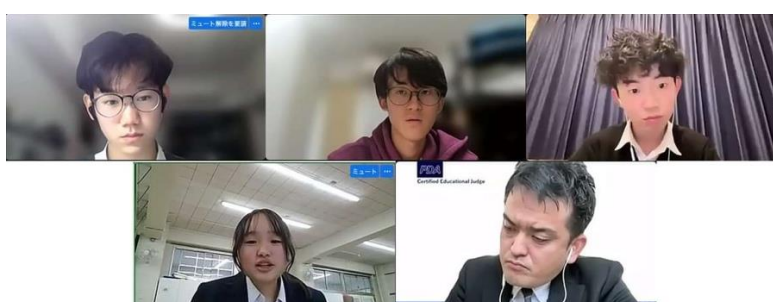
## 予選結果

Place	Team Name	Win	Sum	Institution
1st	Asano	4	164	Asano Senior High School
2nd	Sagamihara	3	168	Sagamihara Senior High School
3rd	Mongolia	3	156	Hobby School of Ulaanbaatar
4th	Komaba	3	154	Senior High School at Komaba, University of Tsukuba
5th	Uganda 1	3	153	Trinity College Nabbingo
6th	Romania 1	3	143	CN Al Papiu Ilarian
7th	Uganda 3	3	130	Debate Cranes
8th	Seiko	2	168	Seiko Gakuin High School
9th	Fujishima	2	163	Fukui Prefectural Fujishima High School
10th	Philippines 1	2	162	Caraga Regional Science High School
11th	Dokkyo	2	154	Dokkyo Senior High School
12th	Colombia 2	2	152	American School
13th	Colombia 1	2	151	American School
14th	Trinidad and Tobago	2	149	Trinidad and Tobago
15th	Philippines 2	1	149	Xavier School San Juan
16th	Thailand 1	1	148	Prince of Songkla University Demonstration School (Secondary)
17th	Thailand 2	1	147	Prince of Songkla University Demonstration School (Secondary)
18th	Poland 1	1	138	Zespół Szkół Łączności w Krakowie (Schools of Communications in Cracow)
19th	Jamaica	1	109	Hampton School
20th	Uganda 2	1	101	Code High School
21st	Poland 2	0	139	Zespół Szkół Łączności w Krakowie (Schools of Communications in Cracow)
-	Romania 2	-		National College Andrei Saguna
-	Cameroon 1	-		Zemneh High School
-	Cameroon 2	-		Zemneh High School B
-	Nepal	-		Ripumardini Sainik Mahavidyalaya
-	Morocco	-		Morocco Debate Association

白熱の準決勝が終了し、その結果浅野（予選1位）と相模原（予選2位）が決勝に進出しました。決勝戦の論題は「高校生にとってSTEM教育は語学教育よりも重要である。」でした。これに関連して、Dr. Somporn Chuai-Areeによるキーノートスピーチが行われました。プログラミングを容易にするソフトがSTEM教育の普及を支える旨お話いただきました。生徒が真剣に耳を傾ける様子も見られました。決勝戦では、高校卒業後の学ぶ機会や必要性など様々な観点から議論が交わされました。PDA認定教育ジャッジや海外の教員がジャッジを行い、浅野高校の優勝となりました。



キーノートの様子



決勝戦の様子

閉会式では、表彰が行われ、代表チームや生徒に対して Zoom のチャットで多くの賛辞が送られました。最後に、代表理事から総括があり、この大会参加への感謝と今後のエールが送られました。

今年度も引き続きオンライン開催となりましたが、大盛況のうちに世界交流大会は幕を閉じました。大会に参加された世界の高校生、引率の先生、キーノートスピーカーの皆様、この世界交流大会を助成、後援、応援くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

## 第9回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会〔結果〕

### チーム賞

優勝： 浅野高等学校

準優勝： 神奈川県立相模原高等学校

準決勝出場チーム： モンゴル、筑波大学附属駒場高等学校

### 個人賞

#### ベストディベーター賞

・ 4回

\_\_\_\_\_さん(浅野)

・ 3回

\_\_\_\_\_さん(筑駒)

\_\_\_\_\_さん(コロンビア 1)

\_\_\_\_\_さん(ウガンダ 3)

・ 2回

\_\_\_\_\_さん(獨協)

\_\_\_\_\_さん(獨協)

\_\_\_\_\_さん(藤島)

\_\_\_\_\_さん(モンゴル)

\_\_\_\_\_さん(ポーランド 1)

\_\_\_\_\_さん(コロンビア 2)

\_\_\_\_\_さん(ウガンダ 1)



ベストディベーター賞

## POI 賞

・ 4 回

\_\_\_\_\_ さん(ルーマニア 1)

\_\_\_\_\_ さん(モンゴル)

\_\_\_\_\_ さん(コロンビア 2)

・ 3 回

\_\_\_\_\_ さん(聖光)

\_\_\_\_\_ さん(ジャマイカ)

\_\_\_\_\_ さん(タイ 1)

\_\_\_\_\_ さん(コロンビア 1)

\_\_\_\_\_ さん(ウガンダ 1)

・ 2 回

\_\_\_\_\_ さん(トリニダード・トバゴ)

\_\_\_\_\_ さん(相模原)

\_\_\_\_\_ さん(獨協)

\_\_\_\_\_ さん(ポーランド 1)

\_\_\_\_\_ さん(ウガンダ 2)



ベスト POI 賞

## 文化賞

ジャマイカ

フィリピン 2

獨協中学高等学校

タイ

## 第9回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会〔感想〕

### 世界交流大会の感想（抜粋）

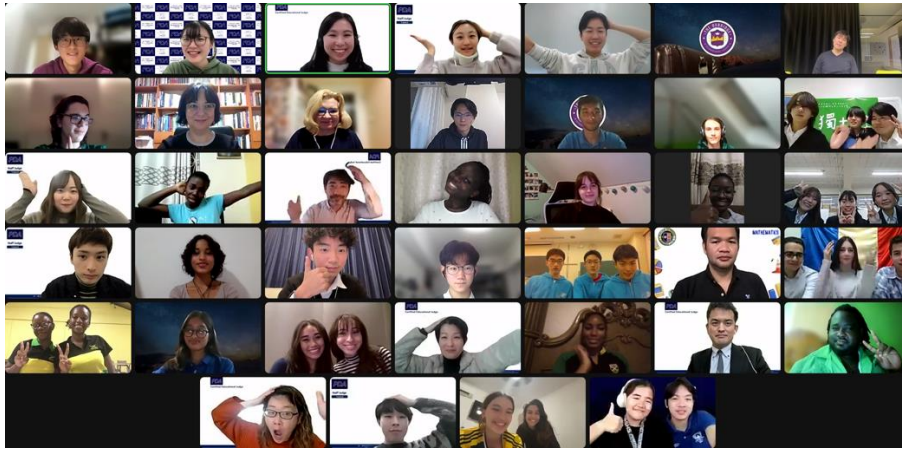
#### （生徒）

- 他の国の参加者と話す時間が本当に楽しかった。他の文化を知ることは素晴らしいことだと思いました。（ポーランド）
- ディベートが本当に楽しく、大会もとてもスムーズに運営されていました。（コロンビア）
- 他の国の参加者との交流は、とても学びがあり楽しかったです！（コロンビア）
- 海外の人々とディベートできる素晴らしい機会でした。（浅野、日本）
- このフォーマットでのディベートが楽しかったですし、お気に入りのフォーマットになりました。（ルーマニア）
- 3語で感想を言うと、「非常に・素晴らしい・経験」。（モンゴル）
- 海外の参加者とのディベートはとてもユニークで面白かったです。（聖光、日本）
- 世界中の人々と出会い、学びのあるディベートに参加できる素晴らしい機会でした。（トリニダード・トバゴ）
- 競争的でありながらも友好的な雰囲気、素晴らしい効率性、フレンドリーさに感謝しています。（ルーマニア）
- この大会に参加する前は、日常的に英語を話す人々とともにディベートすることができないと思っていました。しかし、勝つことができ、またたくさん交流することもできて楽しかったです。（相模原、日本）
- 国際的な高校生とコミュニケーションを楽しんで、文化を共有できて楽しかったです。（藤島、日本）
- みんながとてもフレンドリーで親切でした。新しい人々に会って、彼らの国について学ぶのは楽しかったです。本当に楽しい経験でした。（ウガンダ）
- この大会は新しい海外の高校生との出会いとなり、私の世界を広げました。（タイ）

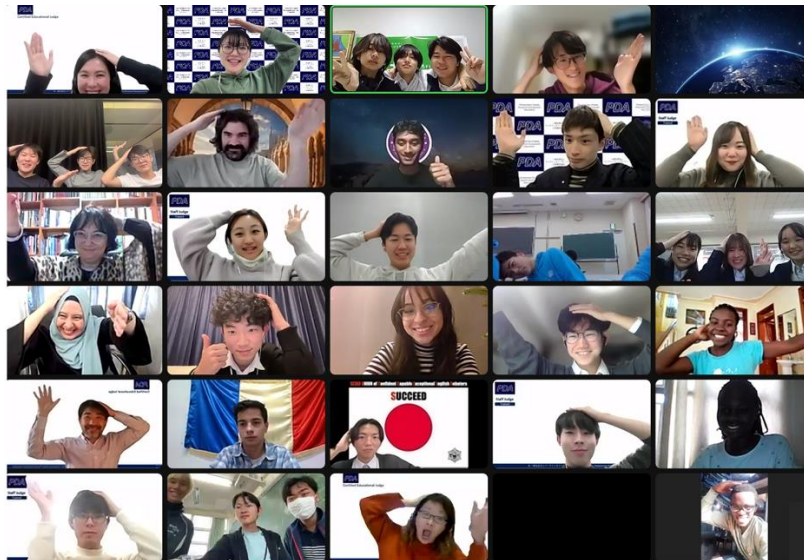
#### （教員）

- スタッフの親切さと準備の行き届いた対応にはいつも感謝しています。特に、皆さんの熱意が私が最も尊敬するものです。それが実際に私を日々向上させる原動力となっています。皆さんは私の理想のモデルです！！
- 世界中のチームとのディベートを楽しむ良い機会となりました。
- この大会が大好きです。時差が14時間もあるにもかかわらず、私の生徒たちは興奮していました。





集合写真①



集合写真②

**第7回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会**  
**The 7th PDA Junior High School Parliamentary Debate National Competition**

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2024年3月17日(日)

会場：Zoom (オンライン)

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：大阪公立大学

後援：朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人 日本英語交流連盟、  
JSPS San Francisco Office

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、  
一般財団法人 三菱みらい育成財団

協賛：世界の第2言語学習者の英語運用能力を目的に開発された  
TOEFL Primary(CEFR B1 前半迄測定可)、TOEFL Junior(CEFR B2 後半迄測定可)

**【開催趣旨】**

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

( 参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/> )

**【参加校】**

- (青森県) 八戸聖ウルスラ学院中学校
- (岩手県) 岩手県立一関第一高等学校附属中学校
- (茨城県) 茨城県立太田一高等学校附属中学校
- (茨城県) 茨城県立勝田中等教育学校
- (茨城県) 東洋大学附属牛久中学校
- (栃木県) 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校
- (千葉県) 東邦大学付属東邦中学校
- (千葉県) 翔凜中学校
- (千葉県) 渋谷教育学園幕張中学校

(東京都) 筑波大学附属駒場中学校  
(東京都) 東京都立小石川中等教育学校  
(東京都) 東京都立武蔵高等学校附属中学校  
(東京都) 東京都立三鷹中等教育学校  
(東京都) 東京都立富士高等学校附属中学校  
(東京都) 千代田区立九段中等教育学校  
(東京都) 渋谷教育学園渋谷中学校  
(東京都) 武蔵高等学校中学校  
(東京都) 広尾学園中学校  
(東京都) 品川女子学院中等部  
(東京都) 獨協中学高等学校  
(神奈川県) 浅野中学校  
(神奈川県) 聖光学院中学校  
(神奈川県) 栄光学園中学校  
(神奈川県) 湘南白百合学園中学校  
(長野県) 長野県諏訪清陵高校附属中学校  
(愛知県) 東海中学校  
(愛知県) 南山中学校女子部  
(愛知県) 大成中学校  
(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校  
(岡山県) 岡山県立岡山大安寺中等教育学校  
(徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校  
(熊本県) 熊本県立八代中学校  
(宮崎県) 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

欠席

(東京都) 東京都立大泉高等学校附属中学校  
(愛媛県) 愛媛県立松山西中等教育学校

全 35 校

【タイムスケジュール】

09:30 受付  
09:50 開会式  
10:20 ラウンド 1  
11:20 昼食交流会(11:30~12:00)  
12:10 ラウンド 2

- 13:20 ラウンド 3  
14:30 決勝進出チーム発表、決勝準備  
14:35 キーノートレクチャー  
14:50 決勝  
15:20 表彰式、アンケート  
15:40 終了

### 【ご挨拶】

第7回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会へのご参加ありがとうございます。  
毎年参加校数が増えており、中学生が英語を使って即興で議論する取り組みへの関心が高まっていると感じます。

高等学校の新学習指導要領では、2022年度から英語科の新科目「論理・表現」が掲げられ、活動としてディベートが明記されています。本大会で取り扱うディベートは、授業の50分で完結する形式であり、中学生にとって近い将来役立つ内容です。英語で発信する力のほか、さまざまな論題について多様な視点から考える力を鍛える一助となることを願っています。キーノートレクチャーもお楽しみください。

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）代表理事  
中川智皓（大阪公立大学工学研究科・准教授）  
東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー  
理化学研究所 客員研究員  
寝屋川市教育委員

### 【論題】

- Round 1 Japan should accelerate its investment in small rockets.  
日本は小型ロケットへの投資を加速すべきである。
- Round 2 It is better to spend time on various experiences rather than studying for university entrance exams (traditional written exams).  
大学入試（従来の筆記試験）に向けた受験勉強よりも、各種体験に時間を使う方がよい。
- Round 3 For violent crimes, the names of offenders should be disclosed, regardless of age.  
凶悪犯罪について、年齢に関わらず、犯罪者の氏名を公表すべきである。
- 決勝(キーノート) Limited medical care in times of disaster should prioritize the young over the elderly.  
災害時の限られた医療は高齢者よりも若者を優先すべきである。

### 【キーノートスピーカー】

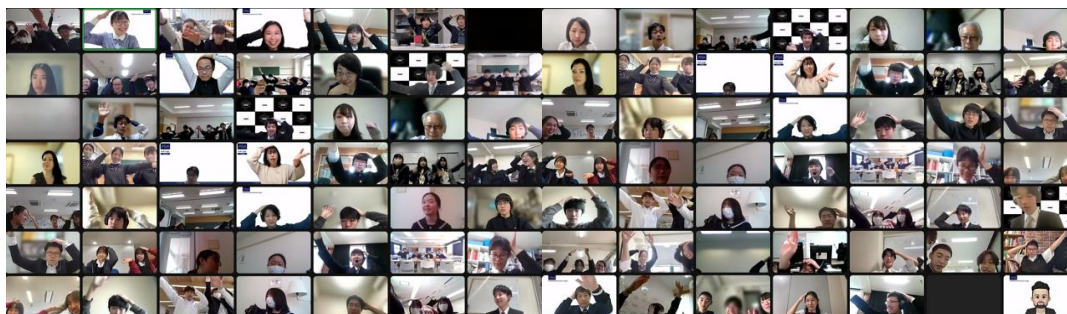
特定非営利活動法人（認定 NPO） ピースウィンズ・ジャパン（Peace Winds）

空飛ぶ捜索医療団“ARROWS” プロジェクトリーダー

稲葉 基高氏

### 【開会式】

第7回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会も、前大会に引き続き遠隔（オンライン）で実施することとなりました。開会式では、はじめに、中川代表理事より開会の挨拶として本大会の趣旨についてお話がありました。本大会で扱う英語ディベートは実際の授業時間内（50分）で完結する形式であり、中学生にとって英語力だけではなく、批判的思考力や論理的思考力を育むためにも役立つものであります。その後、PDAでのディベート推進活動の紹介がありました。PDAでは、コロナ以前から7年ほどかけて、各地域でのディベート交流大会、認定教育ジャッジ制度の確立などに取り組んでいます。つづいて、本大会参加の35校が紹介されました。各校で様々な特色ある挨拶を交わし盛り上がりしました。POI（Point of Information: ディベート中の質疑応答）を全員で練習した時、メインルームには参加者たちの大きな「POI!」のかけ声がひびきわたり、生徒たちに笑顔も見られました。その後、ルール説明や注意事項、PDAスタッフよりジャッジへ向けてスコア送信についての注意事項、説明が行われました。



POIの練習

### 【ラウンド1】

開会式が終わると早速1ラウンド目のスタートです。ラウンド1の論題は“*Japan should accelerate its investment in small rockets. (日本は小型ロケットへの投資を加速すべきである。)*”でした。テクノロジーの開発や宇宙業界への投資の話など、難しい内容の話にも触れており、議論が白熱しました。初戦から積極的なPOIが行われ、ディベートが盛り上がりました。結果を待つ間に、相手チームと「どのような話をしていたか」や「〇〇と言っておけばよかった」など、自主的に振り返りを行っていました。





一致団結！（勝田）



ディベート中の様子（宮崎西）



スピーチの様子（渋谷教育学園渋谷中学校 VS 八戸聖ウルスラ学院中学校）

### 【昼食交流会】

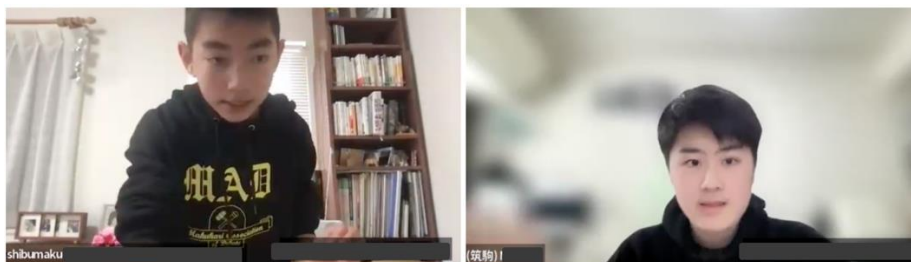
昼食タイムに交流会を行いました。オンライン開催ということもあり画面越しではありましたが、交流しながら昼食をとりました。ブレイクアウトルームに分かれて、ラウンド1でディベートした内容を話したり、お互いの学校生活の話、テストや部活動の話などで盛り上がり、学校や学年を超えて交流を行っていました。



昼食交流会 各ブレイクアウトルームの様子

## 【ラウンド2】

ラウンド2の論題は *“It is better to spend time on various experiences rather than studying for university entrance exams (traditional written exams). (大学入試 (従来の筆記試験) に向けた受験勉強よりも、各種体験に時間を使う方がよい)”* でした。主に Government (肯定側) からは「たくさんの経験が得られる」、Opposition (否定側) からは「基礎学力の定着」について議論が行われていました。スキルを得ることについては両側から話され、大学生になった時に起こりうることを議論中に何度も例として出すなど、自身の数年後をイメージしながらのディベートとなりました。



ディベートの様子 (渋谷教育学園幕張中学校 VS 筑波大学附属駒場中学校)



エアー握手 (神大附属・岡山大安寺)



エアー握手 (栄光・湘南白百合)



交流 (城ノ内・品川女子)



ジャッジコメントの様子 (勝田)

## 【株式会社ダンケゼア TOEFL Primary・Junior に関するご説明】

ラウンド2を終えると、今大会の協賛企業である株式会社ダンケゼアの教員チームリーダー中村先生による TOEFL Primary・Junior に関するレクチャーが行われました。中村先生は、「論理的に相手にわかりやすく伝える力は将来必ず求められる力です。それを伸ばそうと頑張っている姿に感銘を受けました。」と実際にラウンド1と2を観戦した感想を伝え、ご自身のご経験も交えながら TOEFL についてご説明いただきました。



株式会社ダンケゼア 教員チームリーダー 中村先生によるレクチャー

【ラウンド3】

3 ラウンド目の議題は、*“For violent crimes, the names of offenders should be disclosed, regardless of age. (凶悪犯罪について、年齢に関わらず、犯罪者の氏名を公表すべきである。)”* でした。Government (肯定側) からは主に「国民・市民の安全性や不安」、Opposition (否定側) からは「加害者の社会復帰」についてスピーチを行っていました。PMR・LORの両方で前述の2つの論が比較され、自分のチームの立論の方が正しい・重要だと説明しました。実際に身の回りで凶悪犯罪が起こった場合に自分たちならどう感じ、どう思うのかなどをスピーチ中に表現しました。



三鷹 VS 湘南白百合



八代 VS 渋幕



諏訪清陵 VS 一関第一

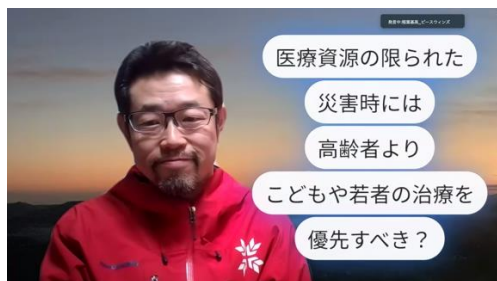


私立武蔵 VS 東邦



### 【キーノートレクチャー】

本大会のキーノートレクチャーでは特定非営利活動法人（認定 NPO）ピースウィンズ・ジャパン(Peace Winds) 空飛ぶ創作医療団“ARROWS”プロジェクトリーダーの稲葉基高氏を講師にお迎えしました。決勝戦の論題にもなっている「災害時の限られた医療は高齢者よりも若者を優先すべきなのか」と言うとても難しいテーマを考えていく上でも貴重な情報を現場での経験も含めながらお話ししていただきました。今年 1 月に起こった能登半島地震での救済の経験や、災害時では医療の需要が通常時に比べて非常に高くなる現状も教えていただきました。また、災害時に 1 人でも多くの人を救うために、限られた資源の中でそれらを最大限に活用して、傷病の緊急度や重症度を迅速に評価し治療の優先度を決定するトリアージも教えていただきました。とても論争的で難しい問題であり、災害国の日本では特に重要な今回のお話には、生徒たちからの質問が絶えませんでした。



稲葉氏によるキーノートレクチャー



質問の手がたくさん上がりました

### 【決勝ラウンド】

ついに決勝戦進出チームの発表です。予選ラウンドの結果、決勝には聖光学院中学校、九段中等教育学校が選出されました。論題は、***“Limited medical care in times of disaster should prioritize the young over the elderly. (災害時の限られた医療は高齢者よりも若者を優先すべきである。)”***でした。多くの観客が見守る中、白熱した議論が展開されました。命の優先順位という非常にセンシティブで難しい論題ではありましたが、積極的に POI も行われ、決勝戦に相応しいラウンドとなりました。



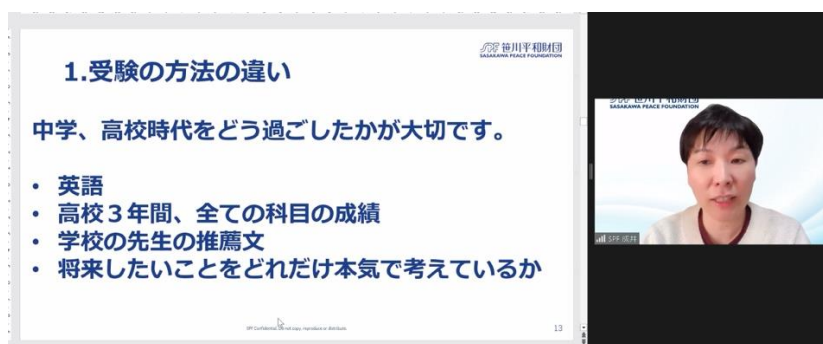
Government: 聖光学院中学校



Opposition: 千代田区立九段中等教育学校

### 【笹川平和財団 留学のご案内】

決勝ラウンド後、公益財団法人 笹川平和財団の留学スカラシップ紹介が行われました。申請方法やそのために必要なことなどを具体的にご説明いただき、ラウンド 2 で大学受験について議論した参加者は海外留学という選択肢に心を躍らせながら説明に聞き入っていました。



公益財団法人 笹川平和財団 留学スカラシップの紹介

### 【表彰式・閉会式】

表彰式では、ベストディベータ賞、ベスト POI 賞、チーム賞が発表され、決勝ラウンドの結果が発表されました。結果を見た生徒たちは喜びをかみしめ、チームメイトお互いに声をかけあう様子も見られました。活躍されたすべての生徒に賛辞を送りたいと思います。



チーム賞発表の様子（岩手県立一関第一高等学校附属中学校）



ベストディベータ賞 受賞者 集合写真





ベスト POI 賞 受賞者 集合写真

ベストディベーター賞やベスト POI 賞を受賞した生徒たちは、「初めての参加で緊張したが楽しく取り組むことができた。」「昨年もこの大会に参加したが個人賞は受賞しなかった。今年受賞することができてとても嬉しい。」「3 年連続参加した。高校生になっても頑張りたい。」など感想を述べました。

最後に、中川代表理事より「ディベートをすることでそのトピックについて深く考えることができます。自分だけでなく社会や他の人のために何ができるか、どうすればいいかを考え、優しさを持ってディベートで得た学びを活かしてください。」とメッセージが送られ、第7回 P D A 中学生即興型英語ディベート全国大会は幕を閉じました。



第7回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会結果

〈チーム賞〉

優勝	聖光学院中学校（神奈川県）
準優勝	千代田区立九段中等教育学校（東京都）
3位	広尾学園中学校（東京都）
4位	浅野中学校（神奈川県）
5位	渋谷教育学園幕張中学校（千葉県）
6位	筑波大学附属駒場中学校（東京都）
7位	渋谷教育学園渋谷中学校（東京都）
8位	岩手県立一関第一高等学校附属中学校（岩手県）

〈個人賞〉（★は3回、他は2回）

ベストディベーター賞

_____	さん(浅野)★
_____	さん(三鷹)★
_____	さん(勝田)★
_____	さん(神大附属)
_____	さん(大成)
_____	さん(広尾)
_____	さん(都立武蔵)
_____	さん(翔凜)

ベスト POI 賞

_____	さん(獨協)★
_____	さん(渋幕)
_____	さん(神大附属)
_____	さん(大成)
_____	さん(南山)
_____	さん(東海)
_____	さん(諏訪清陵)
_____	さん(品川女子)
_____	さん(私立武蔵)
_____	さん(渋々)
_____	さん(九段)
_____	さん(小石川)
_____	さん(筑駒)
_____	さん(太田第一)

## 【アンケート（抜粋）】

### 1. 生徒からの感想

- ディベートを他校の方とするのが初めてで、いろいろな人のディベートの進め方を知ることができたので今後に生かしたいです。ジャッジの先生方からのアドバイスもとても分かりやすく、今後のディベートで気を付けていきたいと思いました。（宮崎西）
- ブレイクタイムなどで友好関係を築いたり、ジャッジさんが丁寧に説明していただいたりしたので分かりやすかったし楽しかったです。（富士）
- 前回の大会よりテーマが難しく、時事ネタが多かったように思いました。来年の大会に向けて日頃からニュースを見て、自分の意見を持てるようになりたいです。（大成）
- このような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。貴重な経験になりました！！！！！！（一関第一）
- 全国の学校と試合ができる機会はなかなかなくて良い経験となりました。去年よりは良いスピーチをすること、焦らず落ち着いてすることを目標に頑張りました。他校の生徒さんとの交流で刺激を受けたところも多くありこれからも頑張って練習を続けていきたいと思います！！（岡山大安寺）
- 自分の言いたいことを言えた時が楽しかった。（九段）
- 自分の英語力も高まり、論理的思考力も高まった。（宮崎西）
- 他校とのディベートによる交流はモチベーションにつながった。（私立武蔵）
- 自分と同じ年や年下の子がすごく上手でもっとたくさん練習しようと思った。（大成）
- 中学校最後だったので、ここで学んだことを高校生でも活かして行きたいなと思います。（湘南白百合）
- 今まで関わったことのない学校と関わって、いろんな経験を積むことができた。（湘南白百合）
- なかなか交流できない学校とのディベートが体験できて生徒共々、大変勉強になりました。（八代）

### 2. 教員・見学者からの感想

- 中学生の大会は非常に貴重で、多くの他校の生徒とかわることができたこと、経験を積めたことが何よりです。ありがとうございました。
- ジャッジを2ラウンドやらせていただき、大変勉強になりました。今後も生徒と一緒に勉強していきたいと思います。
- 論題が最近のニュースと密接につながっていた。生徒たちの、見解が様々で聞きがいがありました。
- 論題が生徒たちの身近な経験に近かったり、キーノートレクチャーに繋がっていたりと、非常に考えさせられるものでした。
- 理屈抜きで、ディベートから得られる楽しさや学びの深さを実感できました。

- ディベートにひたむきに取り組む子どもたちに関われるのは、尊いことだと感じます。
- 他校の中学生が難しい論題にもひるまず、果敢に議論を進める姿を見て、いい刺激になりました。
- 中学生のレベルに本当に驚きました。高校生の中級以上のレベルではと思いました。論題は結構、中学生にとって難しかったと思いますが、私がジャッジした試合では、両チームとも見るべきポイントを外さずにディベートできていました。これからの伸びが楽しみです。

### 3. キーノートレクチャーについての感想

- 現地で乃経験がある人のお話を聞いてとても考えさせられるものがあった。(太田第一)
- 特に興味のある分野だったので勉強になりました。わかりやすくとても参考になりました。ありがとうございました。(南山)
- 貴重な現場の意見や考え、実態などを知れてよかったです。(広尾)
- あまり日常生活では聞く機会の無い、災害時等の医療現場にいた人の考えを聞くことができた。(筑駒)
- 災害という緊急状況下で誰を救うべきなのか、実話をもとにとっても考えさせられた。その後の決勝ラウンドを聴くにあたって参考にもなった。(筑駒)
- 自分たちの知らなかった世界のお話(トリアージ含め)を知ることが出来てとても有意義でした。キーノートレクチャーがなければきっと知ることのなかった世界や話だと思うのでとても素晴らしかったです。(南山)
- 実際に先生が赴いた珠洲市での救出活動など、悲しいけれど知るべき事実を知る機会になり自然災害について知識が増えた。(湘南白百合)
- 生命の順序を決めるための葛藤があることに感動した。(諏訪清陵)
- とてもためになった。明日起こるかもしれぬ災害に、できる限りの対策をしたいと思います。(渋幕)
- 非常に示唆に富む、究極の選択、という debate にふさわしい内容でした。(教員)
- 非常に良かったです。これまでもかなり学びの多いレクチャーを提供いただき感謝していますが、今回が最高の学びでした。是非、高校生にも聞かせてやりたいと思いました。お願いします。(教員)
- とても興味深かったです。特に90代のせっかく助けた方が亡くなってしまった話しは考えさせられました。(スタッフ)

以上